ASUKA COMICS DX
ファイアーエムブレム
TM
©1990 Nintendo
1
MASAKI SANO &
佐野真砂輝&わたなべ京
KYŌ WATANABE

ASUKA COMICS DX

ファイアーエムブレム™

M A S A K I S A N O &

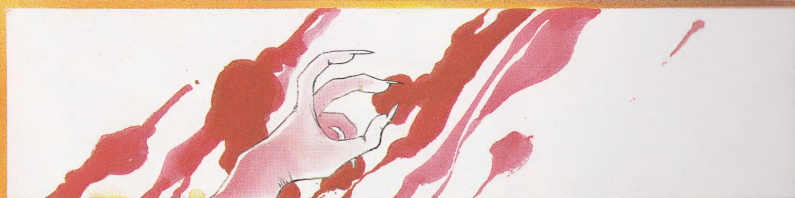
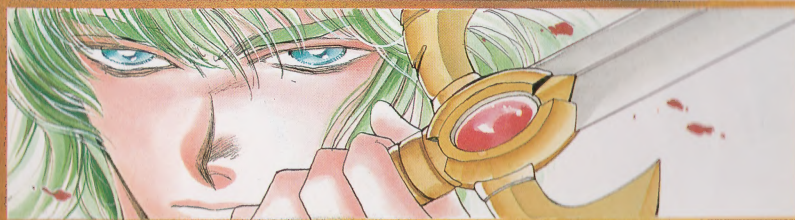
佐野真砂輝&わたなべ京

K Y Ō W A T A N A B E

CONTENTS

Design: EIICHI SUEZAWA

その昔 アカネイア聖王国が治める
アカネイア大陸に戦いがあった

大陸西南部に竜人族の王・暗黒竜メディウスがドルーア帝国を建て
アカネイア大陸を我が物にせんがための戦い

圧倒的な強さでアカネイア聖王国を滅ぼさんとした
暗黒竜メディウスを地の底に封じ
大陸に再び平和を取り戻したのは

神剣ファルシオンを手にした ひとりの青年だった

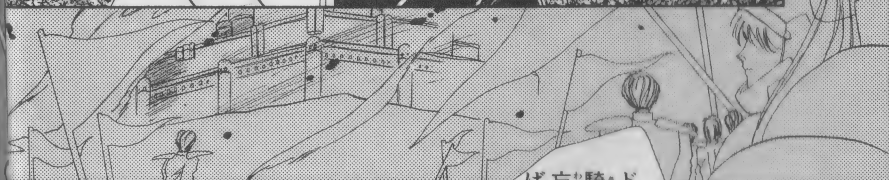
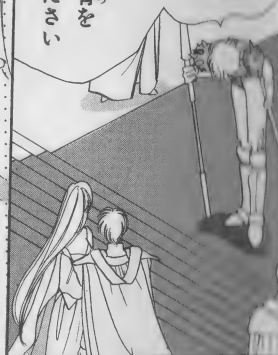
ファイアーエムブレム
TM
第1話
黎明
れいめい

これで
これで儂が
滅びたと思うな
いずれ必ず甦り
おまえに連なる
血の総てを
絶ってくれよう
神剣ファルシオンを
たずさえた
アリティアの青年アンリは
その功によって　アリティアに
国を興すことを許され
その初代国王に
任ぜられる

今をさかのぼること100年余のこの国アリティアでの昔語り
雷光が闇を切り裂く嵐の夜突如甦ったメディウスはマケドニア竜王国とグルニア王国を併合して再びドルーア帝国を建設
高位の魔導士である大司祭のガーネフと手を結び諸国に侵略を開始した
その侵略の手がアリティアにも伸びた時現アリティア国王コーネリアスは神剣ファルシオンを手に迎えうったが

その時はまだ後方を支援する同盟グラ王国の裏切りを知る者は誰もいなかった
申し上げます
ドルーア軍は城内に絶え間なく侵入し
降伏する兵はおろか
女子供までも…斬り捨てておりますっ！
ええいドルーアめ
さすが竜人族を王といただくだけのことはあるわ

女子供までも…斬り捨てております！
じい あの竜人族が
あの暗黒竜メディウスが復活したというのは本当なのだね
は
100年前
アリティアの祖アンリが封じたはずのメディウス
竜に変化するという伝説の竜人族その中で最も凶暴だという地竜族の狂王
ファルシオンで封ぜられる時になんらかの秘術を用いたのでしょう
あるいはあの闇の大司祭ガーネフめが復活に手を貸したのやもしれません

併合されたマケドニアもグルニアも騎士や勇者を多く有する国
ドルーアは息をする間もなくアカネイア聖王国を陥落せしめ
今こうして我がアリティアをも滅ぼさんとしております
申し訳ございません
ドルーアの兵は騎士道など忘れさった輩ばかり
それが証拠に同盟国であるグラでさえドルーアに加わった途端…
ゾ
ジェイガン公！
は
…父上

滅ぼさんと
しております
加わった途端…
…父上
申し訳
ございません
エリスさま
マルスさま
ご胸中も
測れぬ老骨を
お許しください
父上
母上
何故
王妃と
ファルシオンは
預かってゆく

何故同盟のあなたまでがドルーアに
恨むならアリティアの血を恨むがいい
グラのジオル将軍――!!
マルス
は。
エリス姉さま
…しっかりなさい
あなたはアリティアの王太子なのですよ
はい――
姉さま

さすが
アリティアの
王族
父王を
目前で殺され
王妃が囚われても
涙ひとつ
こぼされぬとは
気づいて
おられる
のだ
ご自分たちの
使命と宿命を
マルスさまなどは
今年14に
おなりになった
ばかりだと
いうのに
どうして
泣くことが
できよう?
100年前の
悪夢が
今 甦りつつある
世界が
闇に包まれる

申し上げます
ドルーア軍は真下の階にまで迫っております
もはや我らに
なす術はございません
どうか
どうかお逃げください
ゴト
エリスさま
マルスさま
……!
術がないって
どういうことだろう

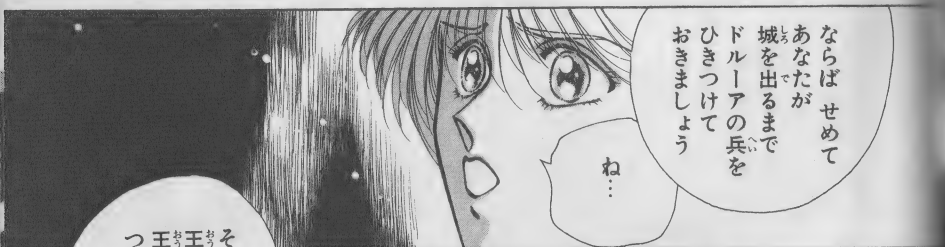
もはや我らに
逃げるってなに？
しっかりしろ
それでも貴様アリティア宮廷騎士団員か!?
…カイン
カイン　どうか
死ぬんじゃない
どうか
逃げるって
どういうことだろう
どうかエリスさまとマルスさまを――…
どこに？――
術はあります

エリスさま!?
マルス
あなたはアリティアの王太子
100年前 世界を闇から救った英雄アンリの血を正しくひく者なのです
…こんなところで死んではなりません
あなただけでも逃げるのです
姉さま!?

モロドフ公
ジェイガン
頼みます

は――

逃げるなら
いっしょです
姉さま

女の足は
脱出の
邪魔に
なるだけ

ならば せめて
あなたが
城を出るまで
ドルーアの兵を
ひきつけて
おきましょう

ね…

それが
王太子の姉たる
王女の私の
つとめです

マルス
あなたは――

生きのびねばなりません
生きて生きてファルシオンを取り戻しメディウスとガーネフを討つのです
偉大なるアカネイア聖王国とこの悠久のアカネイアの大地のために
そして
そしていつの日にかきっと
私とお母さまを迎えに来てください
マルス
…いやです

…判りました
エリス姉さま
いつの日にか
必ず
——
いやです
こんなの
約束にも
ならない
いつの日にかって
いつですか
伝令だ
余力のある者は
すぐに集まれ
マルス王子と
共に
脱出するぞ
はいっ
本当に
そんな日が
来るのですか

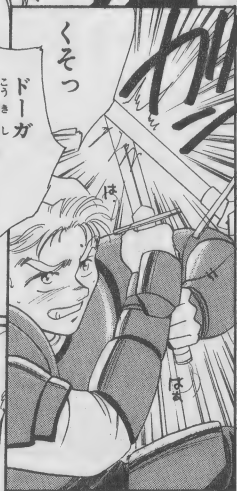
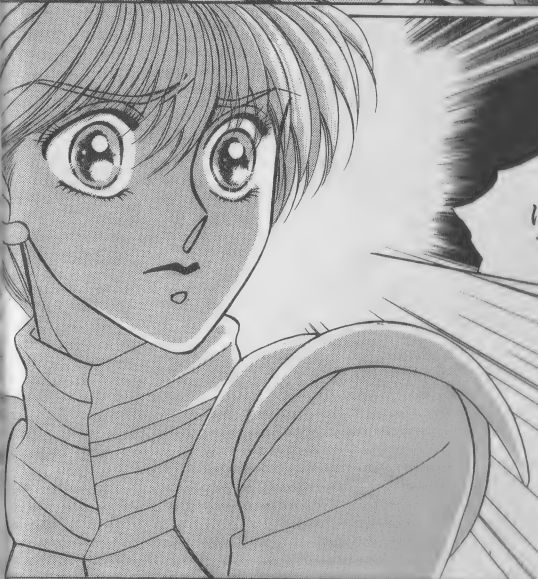
見つけたぞ
生かして捕えろ
王女エリスだ
このぼくにそんな力があるのですか

城が
アリティアの城が
燃えている
アリティアが
おれたちの
城がぁ
うわああっ
うるさいぞ
黙れ！

王子(おうじ)
こちらへ
アベル
よかった
おまえも
無事(ぶじ)だったのだね
はい
皆(みな) 王子(おうじ)と
共(とも)におります
なんて
痛々(いたいた)しい瞳(ひとみ)
泣(な)くことも
許(ゆる)されない
渇(かわ)いた瞳(ひとみ)
ずっと
お側(そば)におります
なんて
重(おも)い宿命(しゅくめい)
タリスへ？

あんな辺境の島国へ行こうというのか？アリティアの王子が！
控えないか古くから王族どうしの親交あつい国なのだぞ
まだ戦火も遠く及ばぬというし——
タリス王は必ずや我らを迎え入れてくれるでしょう
そうだね
タリスならいいだろうね
あの国はとても穏やかで静かで
遠い国だから
遠い

どれだけ
遠く
離れればいい
碧い風
緑の大地の
我がアリティア
どれだけ
いつの日にか
必ず
必ず
うわあ
ドドド

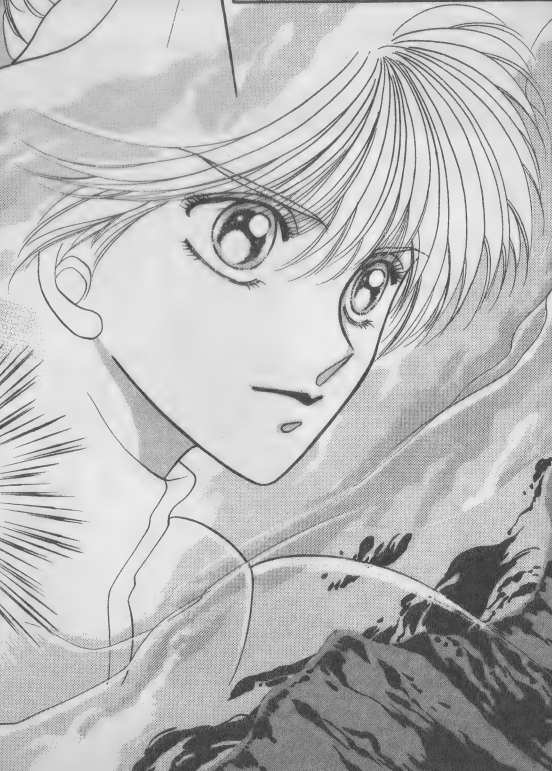
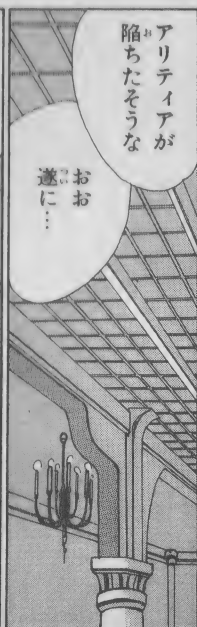
追っ手だ
!
くそっ
ドーガ
甲騎士の
おまえが焦って
動き回るな
いたずらに
体力を使う
だけだ
他の甲騎士と
共に守りに
徹せよ!
わ 判りました
ジェイガン隊長!

弓兵は退がれ
この夜の闇と
森の中では
同士討ちになる
騎士も歩兵も
深追いするな
王子を
お護りすること
だけを考えろ
命にかえても！
はっ
命に
かえても？
ザ

!
うっ
カイン
ここは
闘技場
ではない
敵が一方向から
来ると思うな
はいっ
皆 戦いに
慣れていない
このままでは
くああ
駄目だ

もう逃げられぬ
そもそもこんな少人数で逃げようというのが無理だったのだ
ここで敵の手にかかるよりいっそ
いっそのこと自らの手で
何を言うか命にかえても王子をお護りして
お
おまえたちの命よりこのぼくの命ひとつの方が重いのか!?

命に差があるのか
命にかえられるものなどあるものか
自分の手で死ぬなんてなおさら
誰が許してもぼくが許さない
皆で生きて必ずタリスへ行くんだ
もう誰もぼくのために死のうとなんてするんじゃないッ
生きて生きて

必ず
生きて
いつの日にかきっと
あの約束の地へ
我らのアリティアへ
新手だっ
…いや
ちがう
あれは
ご無事ですか
マルス王子

味方だ――！
タリス親衛隊隊長のオグマと申します
タリス王アレクスの命をうけはせ参じました
タリスへご案内致しますアリティア王子マルス様！
タリスへ

アリティアが陥ちたそうな
おお 遂に…
コーネリアス王はグラのジオル将軍の裏切りで命を落とされ妃殿下と王女は行方知れずとか
ではマルス王子は亡国の王子となられたのか
なにしろアリティアはあの暗黒竜メディウスの怨敵であるから
マルス王子をかくまうことで我がタリスに余計な火の粉が…
おまえたち！

不服ならば
即刻
このタリスから
出て行きなさい
マルスさまを
歓迎しない人など
タリスの民では
ないわ
さあ出て行って！
シーダ様！
姫様
おやめなさい
シーダ
お母さま
彼らは
タリスのことを
思ってくれて
いるのですよ
…判っています
でも 謝りません
わたし 嘘は
言ってないもの

マルスさまは
わたしを
妹のように
かわいがって
くださったわ
エリスさまも
そう
だから
この国で
心休ませて
さしあげるのが
わたしにできる
ことだと思うの
よくぞ
参られた
アリティアの王子よ
その騎士たちよ!
とても
つらい旅を
してこられた
のだもの
西の海岸沿いに
王族の別城がある
ご自由に
使われるとよい
ありがとう
ございます
陛下

シーダ

お久しゅう
ございます
マルスさま

お疲れでしょう?
どうぞ
このタリスで

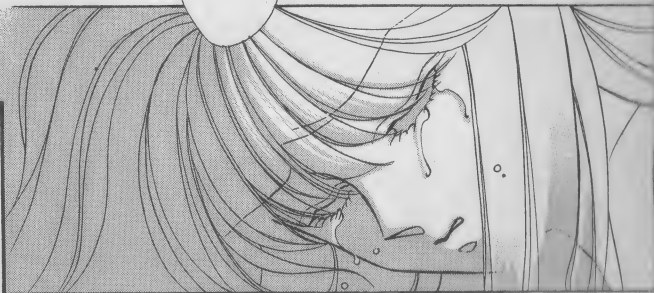
アリティアより

遠く離れた
この地で

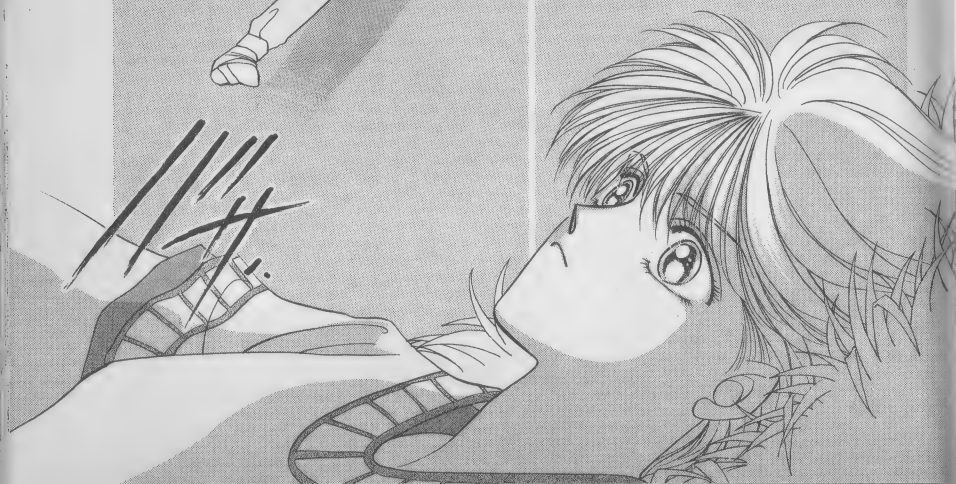
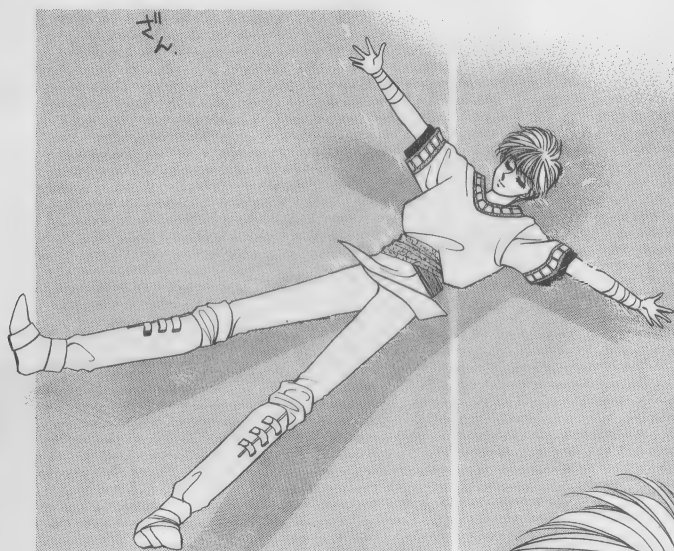
――

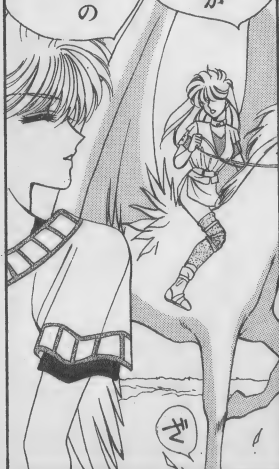
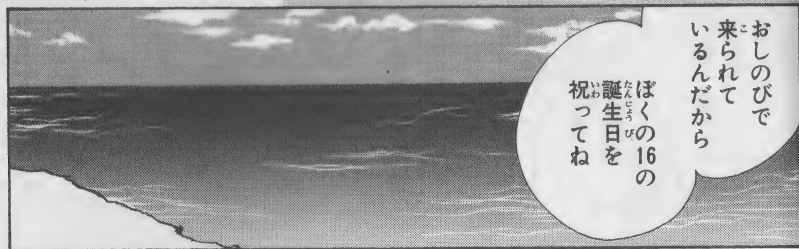
あ

たった
ひとり――

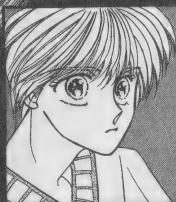
泣かないで
シーダ
シーダ
アリティア陥落

泣かないで
アリティア王国
王女エリス17歳
王子マルス14歳
タリス王国
王女シーダが12歳の
夏の始まりの頃

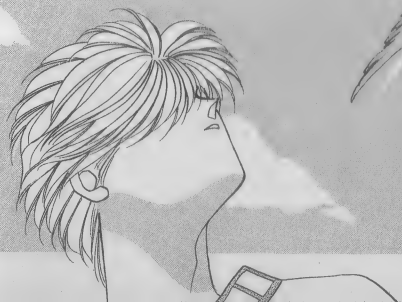
ギレ ギレ ギレ‥

ざん.
ザッ.

マルスさま

やあ シーダ
今日来られたのはどこの国の方?
山を越えて帰ってゆかれるのが空から見えました
エナ国の大使どのだけれど内緒だよ
ざ

好きにさせておけばいいのさ
そのうち誰も来なくなる
シーダは毎日でも来ます！
天馬のエルカイトが疲れてしまうよ
山ふたつ谷ひとつ越えるだけです天空騎士の馬ならばそれくらいへ・でもありません！
へ・でもないぃ？
またカインやドーガたちにまじって訓練してるなっ
彼らを叱らないでねわたしが頼んだの
だってタリスは平和すぎて騎士らしい騎士もいないから

親衛隊隊長も傭兵だからね
でもオグマはもうタリスの人間として…
うん判ってるよ
金で雇われている だけの傭兵なら あの時ぼくたちを助けになど来てくれなかったろう
いくら大陸一の剣闘士と名高くとも
戦いなどない方がいいんだシーダ
そうすれば誰も傷つかずにすむ
女の子が剣を取る必要もない

わたし知ってるのだから
ザ
何かと理由をこじつけて各国の大使がマルスさまを訪ねてくるのは
マルスさまに
ドルーアへの反逆の兵を挙げてほしいからなのでしょう
自分たちからは何もしないくせに!
マルスさまを矢面に立たせて危なくなったらさっさとドルーアに寝返るのに決まっているわ

皆ひきょうだわ
誰も己で剣を取ろうとしないで…！
ぼくは
アリティアの名を背負って戦えるほど強くない
戦いなどない方がいいんだよシーダ

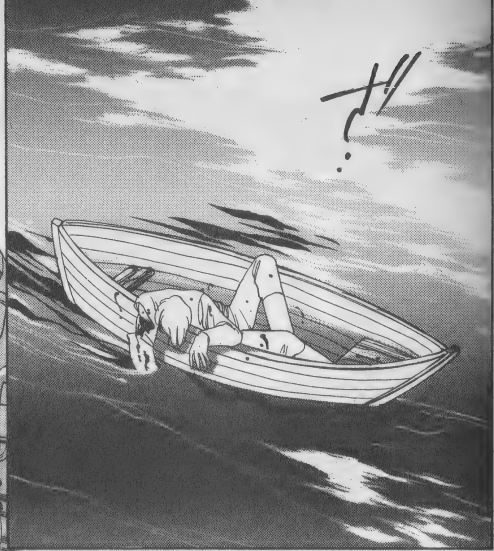
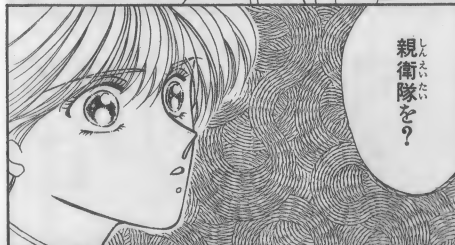
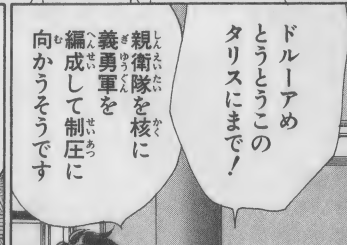
わたし
わたしは
天馬を駆る天空騎士です
わたしが自分で選んだ「道」です
たとえ戦がなくとも
後悔などしません!!

自分が選んだ「道」だから
後悔はしない
――か
ザ
なくとも
やあ
時間だね
誰も傷つかせたくないから
強くなりたい

戦いを
望んでいる
わけじゃない
でも
剣の重さを
忘れない
誰も
傷つかずに
すむくらい
強くなりたい
姫さま
またマルスさまの
ところへ
行かれたのですか
ええ
それが…
なにか？
大臣
いえ その

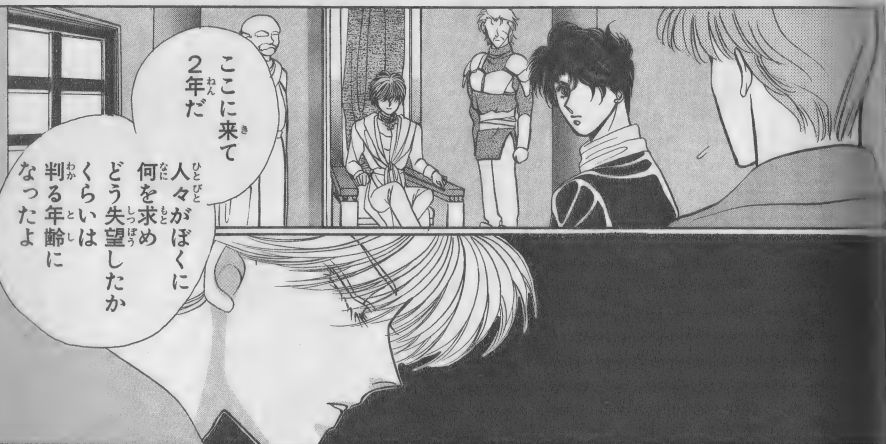
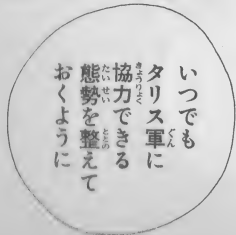
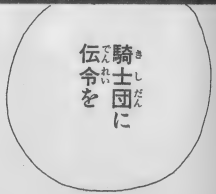
マルスさまも16になられもはや立派な殿方ですし
姫さまにはタリス王国王女としての自覚を……
そうそう
アリティアが以前のように豊かな国であったならばともかく
わたしは間違ってなどいないわ！
あいかわらずお気の強いことだ
さすが天空騎士となられるだけのことはあるのう
しかしいつまでも亡国アリティアの王子にくっついていては他国の王子も近づけまいて
なに 心配御無用「兄」になついているようなものだから
そうよ 私は間違ってなどいないわ

実は わしは マルスさまには 少々失望して おるのだが
おお 貴公だけでは あるまいよ
英雄アンリの 血をひき 父王 コーネリアス王も 勇猛果敢な方 であったのに
未だ反ドルーアの 兵を興す兆しも 見えぬ
100年前のように メディウスを倒し 世界を救うなど とてもとても…
だから臆病者の 言うことなんか きかないわ
やさしいマルスさま わたしは 間違ってない
あなたを 傷つけるものを 許したくない
わっ
ばっ
はっ

ゴードン！
シーダさま
私のような未熟者の弓兵の名をお覚えおきくださいますか
当然だわ マルスさまの騎士団だもの
図書館へ行ったの？ マルスさまがお読みになるのね
あっ おひざが汚れます！
手がふるえてるわ ゴードン
ありがとうございます
そんなに腫らして
弓の練習もほどほどにしないとコップも持てなくなってしまうわよ
ええ でも
——

アリティアを
脱出したあの夜
私は満足に弓を
ひけませんでした
夜の闇の
せいでなく
恐怖で
矢すら
番えなかった
それが私の仕事
なのに
誰もが皆
アリティアの騎士
として
いつでも
王子のために
戦いたいから
強くなりたいと
願っている
おい
ありゃ
なんだ
あの舟
—!

ザ…
海賊だと!?
ガルダの海賊団か!!
はっ
襲われたのはタリスの商船です
積荷は総て奪われ
船長以下船員は
小舟に逃れた
ひとりを除いて
殺害された由に
ございます
その生き延びた
ひとりが
申しますには
海賊どもは
口々に…!
「ドルーア万歳」と
叫んでいたと
──!

海賊団がドルーアの手先に？
ドルーアめとうとうこのタリスにまで！
親衛隊を核に義勇軍を編成して制圧に向かうそうです
親衛隊を？
王子？
いや それではぼくたちも安穏としてはいられないな

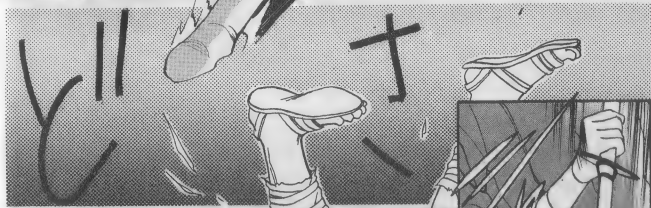
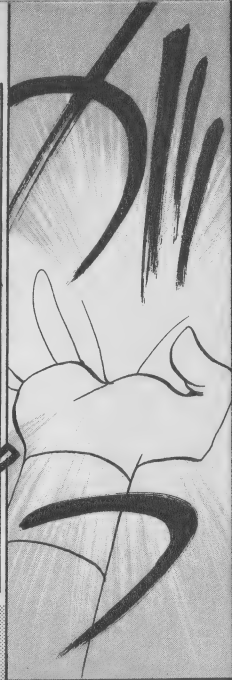
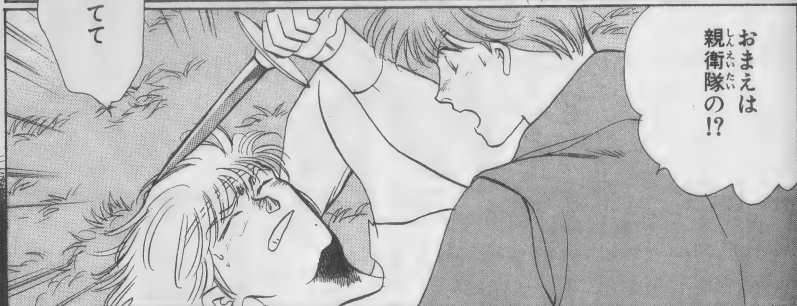
騎士団に伝令を

いつでもタリス軍に協力できる態勢を整えておくように

まったく情けない——
世間の口さがない噂をお耳に入れぬよう気をつけてたつもりだったのに！
王子はおまえが思ってるほど惚けてはおられぬということだ
おれがいつそんなことを思ったというんだアベル！
おドーガだ

今夜も
走りこんでるのか
あいつ
甲騎士としての
体力の不充分さを
よく嘆いて
いるからな
みんな
自分の無力さを
あの戦いで
思い知ったから
だからこそ
王子を護る
騎士として
戦い
でも　かのひとは
自分のために
死ぬなと
いったのだ
あの幼い日に
王子を護る
騎士として
死ぬことを
望んでいる
もう誰も
死ぬなと
おれたちに
できることは
…ないのか？
父を殺され
母は囚われ
神剣は奪われ
姉を
見捨てねば
ならず

あの優しい王子のために
おれたちができることはないのか――?
国を遠く離れ
泣くことも許されずただひとりでもだから
誰もマルスさまの本当の気持ちを知らない
ギン
ガッ
今のはちょっと剣の訓練にしては激しすぎないか?
こんな暗闇の中でケガでもしたら大変だぞ!

!!
ウ…ッ!?
敵!?
まさか
ガルダが
こんなところに
まで!?
マルスさま…っ
ぴく
!

がっ
このっ
ずるん
どさ
ダッ
貴様何者だ!!
カイン!

えっ
その声は…
マルスさま!?
ポク・
おまえは親衛隊の!?
いてて
うちの部下を投げとばすとはたいしたものだ

南方系の戦士の腕力の強さは有名なんだがな
オマケに そいつ 重いし
ザ
オグマ！
マルスさま これはいったい――
オグマに剣を習っていたんだ
ぼくが頼んだんだよ
オグマは最初両手を封じてたんだ
足ではらわれたりして全然かなわなかったけれど

今はなんとか剣でやりあえるようになった

…右手封じて左手でだけどね

何故オグマに剣を

いえ──

判りますマルスさま

私たちの剣は闘技場で名乗りをあげ1対1で戦う時の剣

「戦い」で使う剣ではないからでしょう?

1対1の時に使う技を10人に使えばいいんだ

しょせん剣はどこでも剣でしかないんだからな

では
おれたちの剣は
どうすれば
オグマの剣に
なれる？
使うことだな
人を
斬りまくれと
いうことか？
カイン！
剣は
剣は人を
殺すことも
できるし
生かすことも
できるんだ
——
ぼくは
強くなりたい
誰も
傷つかずに
すむくらい
強く
なりたい

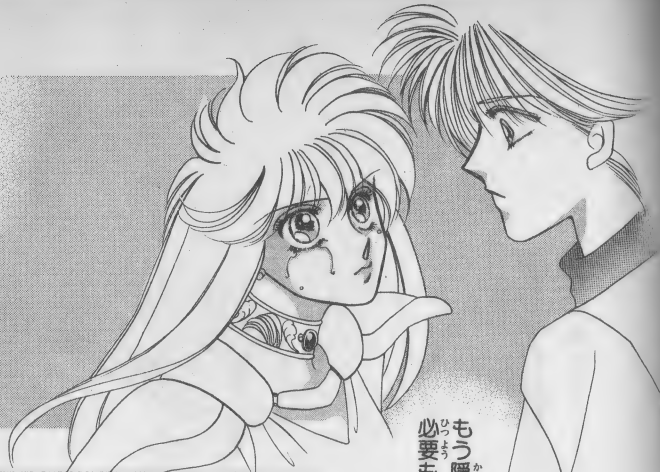
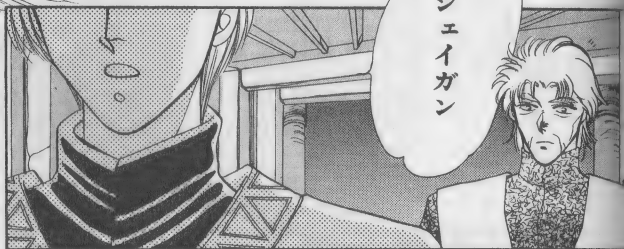
王子
強くなろう
アベル
カイン
傷ついて
傷ついて
アリティアの
騎士たち
それでも
なお
剣を取る
はい──!
もう
あなたは
充分に強い
我らが
信じたように

我らは
間違つてなど
いなかつたのだ
我らの王子
あなたと共になら
どこまでも
行ける
王子の
成長ぶりには
驚かされたな
もともとの
素質が
あられたのは
もちろんだが
いずれきつと
あの緑なす
我らのアリティアへ
あの何にも
惑わされない
瞳の前に
障害など
あるはずがない
騎士団を
だしぬくような
真似をして
すまない
そんなことは
気にしないでくれ
オグマ

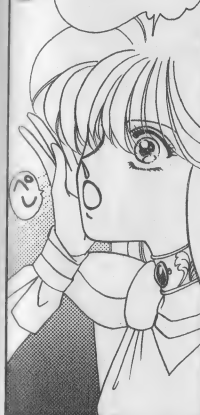
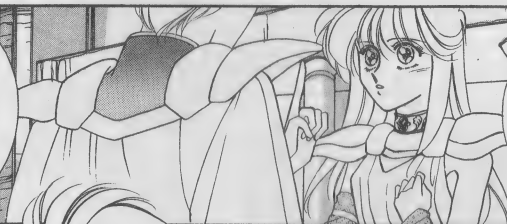
ざぱあん
マルスさまが選んだことだ
間違いでなどあるはずがないだろう？
──そうだな
くす
我が国の王女も人を見る目が高い
義勇軍の準備はすすんでるのか？オグマ
あの日以来海賊はなりを潜めてるらしいが
明後日にも出発する予定だ
しばらくは王子の剣のお相手もできんが
がた
がたん
？どうした
ダン
天馬のはばたきが聴こえる！

ええ!?
きこえないっ
もうすぐ見える隊長!
おれは気配を感じる
妙だな海賊を警戒して天馬の飛行は控えてるはずなんだが
シーダさま!!
シーダ!?
マルスさま
城が
お父さまがお母さまが

ガルダの
海賊に
——!
逆の陸地から
いきなり兵が
攻めてきて
応戦してる間に
海から海賊が
ドルーアの
加勢かっ
ほとんど
抵抗らしい抵抗も
できぬまま
——!
シーダ

お逃げなさい
天を駆けて
マルスさま
お父さまとお母さまを
タリスの城の人々を助けてください
ぼくのことを弱虫と思っているんじゃないのかい？
わたしはマルスさまを信じてます
わたしは間違ってなんかいません！

もう隠す必要もない
ジェイガン
騎士団に戦闘準備の伝令を
準備が整い次第タリス城に向けて出発する
海賊ガルダを掃討しタリス城を解放し

その後
反ドルーアの意志を
世界に示す!
もう
迷うな
はいっ!!
剣を取れ
道を進め
牙を隠すな
もう二度と
そして
誰よりも
何よりも

迷うな
強くなれる
信じるものを
護るために
信じてくれたものを
護るために
マルスさま
わたしも
行きます！
危険だ
シーダ
いいえ
行きます
共に
戦います！

騎士が戦いで
死ねるのなら
本望です
もう
さっきみたいに
泣いたりしません
騎士はわたしが
選んだ道だと
言いました!
マルスさまと
共に戦えた
戦場で
死ねるのなら
——!
ぺし
じゃあ
約束をしよう
シーダ
二度と
死ぬという
言葉を
使わないこと
戦いが終わっても
必ず
生きていること
いいね

ほら
はい！
わたしは間違ってなどいなかったわ

わああああ
騎士はジェイガンとカインにつづけ
アベルと甲騎士は歩兵と弓兵を護りながら後方から攻める！
隊長！
アリティア宮廷騎士団の援護をしろ
王城内はおれたち親衛隊の方が詳しい
敵を袋小路に追いつめて確実に潰せ

心強いよ
オグマ
いえ
お役に立てて
うれしく
思います
城を不用意に
空けてしまって
王にどう
申し開きを
しようかと
悩んでいたので
王子！

ガッ
!
とっ
ぺ

どどうっ
速い！
お見事です！
ありがとう
人を殺すのは初めてですか

慣れろとは申しません
それではただの人殺しですから
うん
でも
きっと忘れない
この剣の重さと血の確かさを
ぼくは——
絶対に

明けることすら
信じられなかった
あの夜
永遠を願った
遠い朝

いや
王子が
望まれたこと
なのだろう？

自らが
取った剣だけが
敵を倒して
前に進むための
力になる

どれひとつ
なにひとつ
見失っても
忘れても
一歩も歩いて
ゆけないことを
知っているから

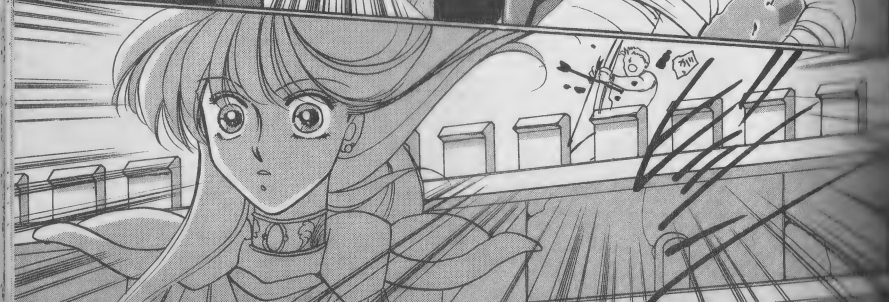
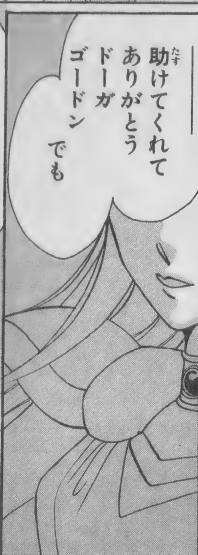
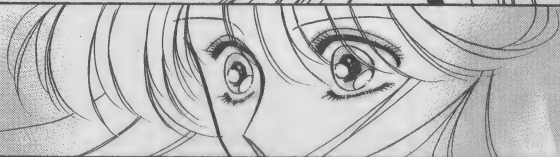
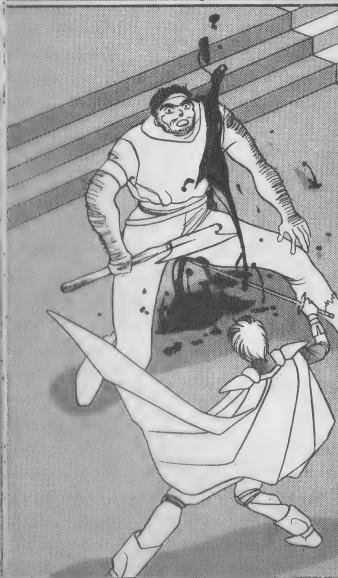
ジェイガン隊長
王子が中央を
突破します
わたしが敵を
切り崩します
王子の援護を！
甲騎士は
前へ！
陣を崩すな
王子を
お護りしろ
自ら剣を
取った手だけが
自らの明日を
選びとれる

ひくっ
どすっ!!
ぐあっ
ビュッ!!
ごろんっ
!
ドーガ!
う
早く父君さまと母君さまのところへ!

ゴードン！
シーダさまが血に汚れぬようおれ…わたしたちがいるのですから！
ごご自分から攻撃をしかけられるのはやめられた方がよいと思いますっ
そうですあなたには姫としてマルスさまのお側にいてほしいのです！
助けてくれてありがとうドーガゴードン　でも
でも　血に汚れるくらいでマルスさまのお側にいることがかなうのなら
いくら汚れてもいいの　わたし

陛下
妃殿下!
ばっ
マルス
マルスさま!
マルス?
アリティアの
王子の
マルス!?
こいつぁ
ツイてる
おまえの首を
さしだせば
おれは
ドルーア正規軍の
将軍になれる!!

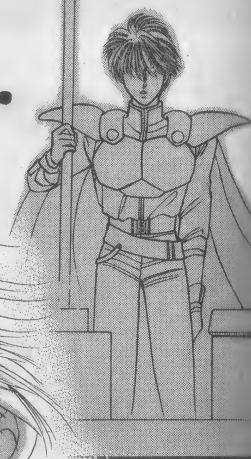
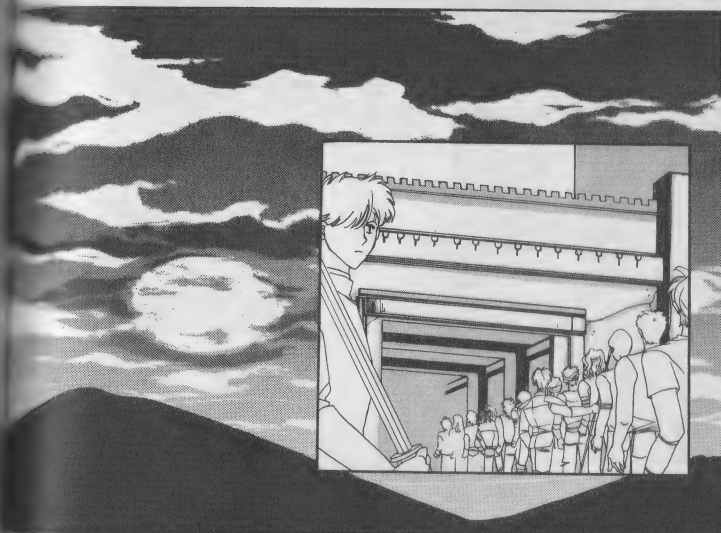
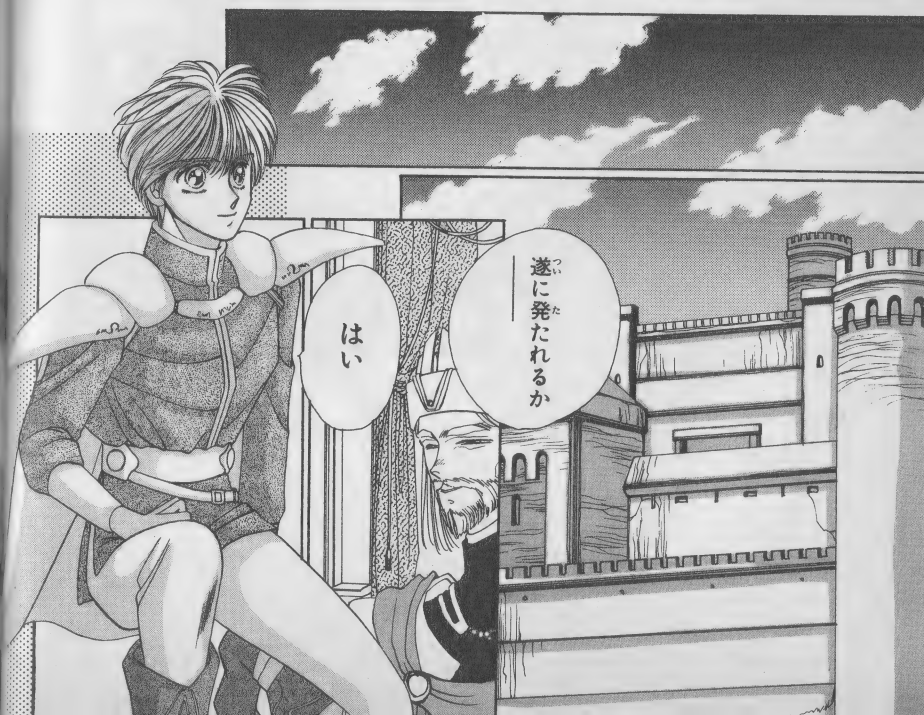
マルスさま!!
ふ

な…にぃ？

バカな
アリティアの王子が
こんなに強いはず…が
な
ズキン
わ
あ
陛下妃殿下！

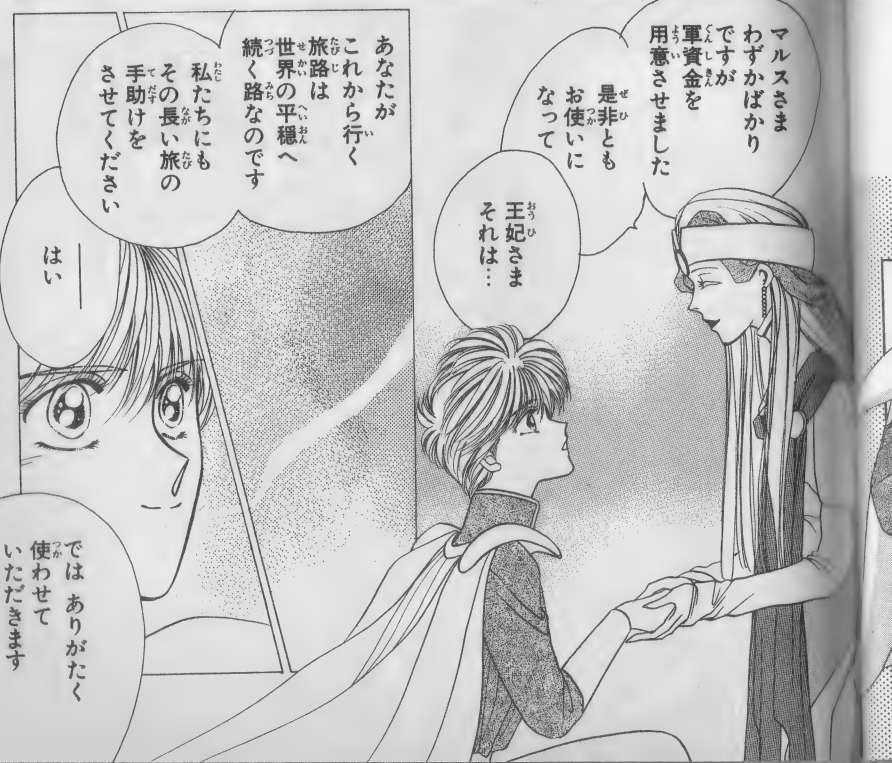
お助けに上がりました
ご無事ですか
…おお
信じておりました！
アリティアの王太子よ――！
あ

あの旗は
勝ちどきの旗だ！
上はタリスの国旗
下は
下は——！
アリティアの旗だ
ワ

海賊団とドルーアの援軍に告ぐ
おまえたちの将ガザックは討たれた!
すぐさま剣を捨て投降すればよしなおもタリスに剣を向けるならば——
我らアリティア宮廷騎士団が容赦しない

がしゃん
この2年間の
遂に発たれるか——
はい

この2年間のことを思うと陛下には感謝の言葉も見つかりません

父の無念を晴らし母と姉と　そして神剣ファルシオンを取り戻したならば真っ先にご報告に上がります！

楽しみなことだ

マルスさま　わずかばかりですが軍資金を用意させました

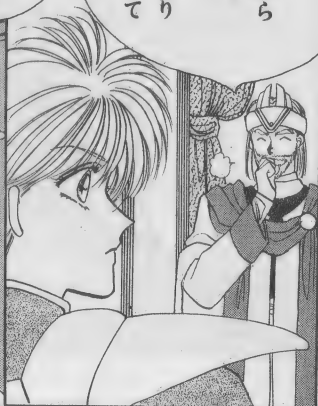
是非ともお使いになって

王妃さま　それは…

あなたがこれから行く旅路は世界の平穏へ続く路なのです

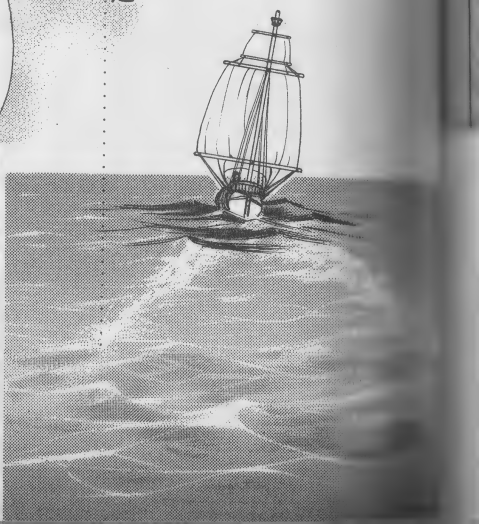
私たちにもその長い旅の手助けをさせてください

はい　——

では　ありがたく使わせていただきます

それから
要職にありながら
この大事に城を
空けておった
不届き者をひとり
部下を3人つけて
進呈する
荷運びにでも
なんにでも
お使いに
なるがよい
オグマ!
よろしく
お願いします
王子
それと
最後に
ひとつ

お父さま
お母さま
天空騎士の門出を
お祝いくださいませ
なっ…
なにを
言ってるんだよ
シーダ！
君は一国の
王女
なんだぞ!?
マルスさまだって
一国の王子で
次に国王に
なられる身でしょ
ぼ　ぼくは
…いいんだよっ
わあ
わあ
何がどう
いいわけ
なのですか？
引き留めても
きかぬでな
天を駆けて
追って
ゆかれては
私たちには
どうすることも
できませぬし
この国で
マルスさまの
身を案じて
ただ生きて
ゆくのは嫌!!

たとえ
マルスさまが
死んだとしても
自分の目で
見なくては
信じません
わたしは
己の心にだけ
従いたいと
思います
そうだ
いつだって
この瞳が
・・・
死ぬという
言葉を
二度と
使わないと
誓えるかい?

はい
この瞳だけが ぼくを見ていてくれたんだ
――行ってしまったなぁ 本当に
くす

何がおかしいかね
急に老けられましたわ 王
……
シーダはきっと世界でいちばん幸せな娘ですわよ
ずっといっしょに生きるという約束よりも
共に死ぬかもしれないという可能性の方が素敵ですもの
――

シーダはおまえに似たのだな
あら
アカネイア聖王国のニーナ王女がオレルアン草国に逃げのびられているそうだ
オレルアンの騎士団と合流してニーナ王女をお助けしつつ
反ドルーアとアリティア復興の意思をお伝えしよう
ザァァーン…
は
どうしたジェイガン
いえ
…大きゅうなられましたなぁマルスさま

アベルもカインも
その他の
騎士団員も
本当の「騎士」の
顔に近づいてきた
実戦経験の
少なさだけが
心配でしたが
年寄り
くさいよ
ジェイガン
何を
おっしゃいます
マルスさまっ
まだまだ
若い者には
負けませんぞ!!
そう
願いたいね
ねぇ
オグマ
はい?
わたし ずっと
気になって
いることが
あるのだけれど

マルスさまがタリスに来られた日のことなんだけれどね
はい
マルスさまは本当はあの時
泣きたかったのではないかと思うの
でも
わたしが先に泣いてしまったからこらえられたのではないのかしら
私はその場には居あわせませんでしたが

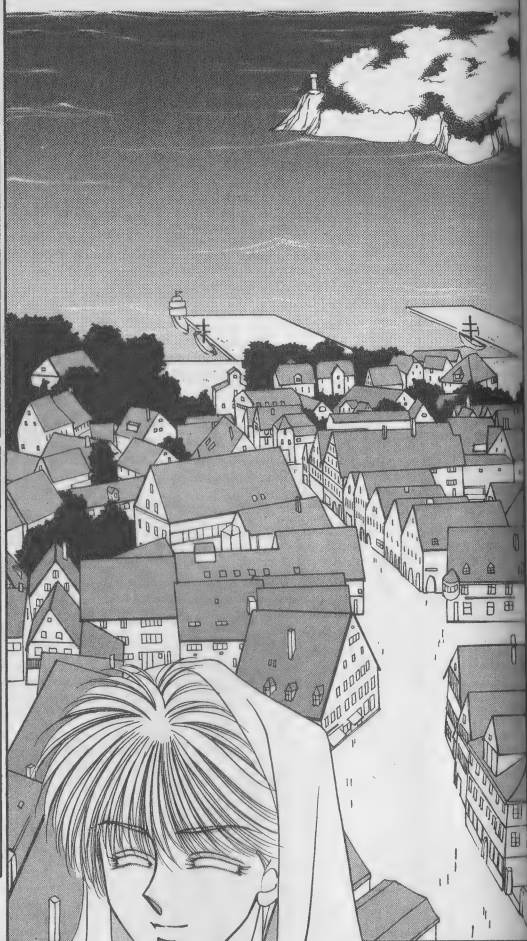
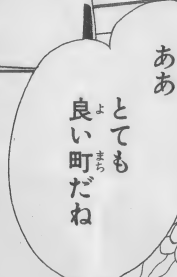
少なくとも今の王子なら
我らが踏みしめるのは侵略の大地
泣かれはしないでしょう
我らが往くのは遥かな戦いの血路
智恵と力と慟哭の子供たち
★第1話/黎明★おわり

ファイアーエムブレム™
©1990 Nintendo
第2話
紫嵐
しらん

金目のものぁ
なにひとつ
残すなよ
女は
逃がすな
手向かう奴は

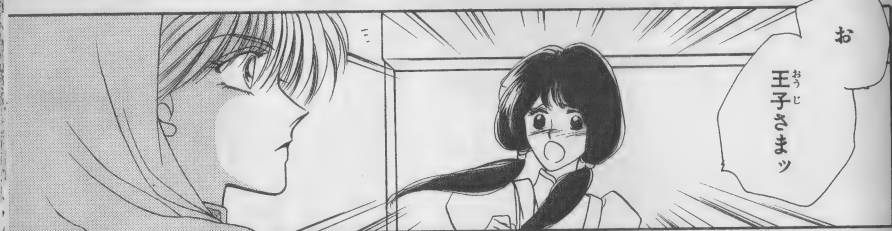
殺せ
ひ…

ざっ

ごらんになりましたかこのガルダの町の にぎわいを
ああ とても良い町だね

それというのも
マルス王子さま
はじめ
アリティアの
騎士の方々が
このガルダに巣くう
海賊どもを
退治してくだすった
からこそ
タリス王より
賜わった
町長の役にある
私などついに
何もできず
じまいでした
だけど
まだ何も
終わったわけ
ではないから
ええ

もっと強い弓があればいいのにな
今のおれにはこれで充分だよサジ
ワーレンという港町には翔弓兵用の強力な弓などもあるそうだぞ
そのまえに一人前の弓手兵にならないとなゴードン
どーせ半人前だよっ
にしても
なにか嫌な山だよなぁ
あの山の向こう

あの山を越えさえすればアカネイア聖王国のニーナ王女がおられるオレルアン草国の領地内です
「草原の狼」オレルアン王弟のハーディン公がお護りだという話ばかりが伝わってきますのも
あの山に悪魔が住みついて山越えを容易にしておらぬが故
悪魔？
盗賊団です
サムシアン と呼ばれておりますが
ことによったらガルダの海賊よりも始末に終えませぬ

己が欲望のまま
村々を襲い
物品を強奪し
人々を
殺めております
世はまさしく
天下を二分する
戦いの最中だと
いうのに
つい最近では
僧侶までも
さらっていって
しまいました
どんな争いに
おいても
無関係のはずの
僧侶を…
お
王子さまッ
おねがいです
シスターを
シスター・レナを
お助けください
どうか
これッ
なんという…
いや
かまわない

この娘は山すその貧しい村の出でございまして

さらわれたシスター・レナはそういった村々で癒しの術を施しておられたのですよ

シスターがあたしの病気を治してくれたからこうして生きていられる

どうかどうかあのおやさしいシスターをお助け下さいまし——！

あの山はなんにせよ越さなければならないのだよ

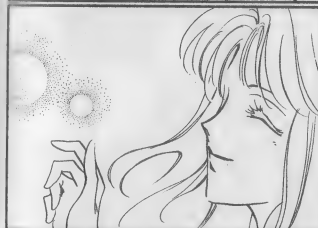
今さら目的がひとつ増えたところでどうということはないだろう

ね？

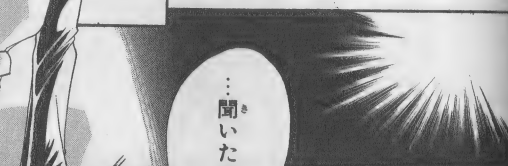
は

悪魔には
死神が
ついているのです
二本の剣を
自在にあやつり
瞬く間に百の死体を
作るという
サムシアンの用心棒
あの
ナバールが

ようジュリアン
あのシスターの食事か
大変だよ
ったく
神に仕える
お方は
飲み食いしちゃ
いけねぇもんが
多くてよ
サムシアンに
さらわれたクセに
なにゼータク
言ってんだかな――
シスター・
レナ!
食事だぜ

ありがとう
肉も魚も入ってねぇよ
今日のはちゃんとぬいた！
これも酒じゃなくて西の沢から汲んできた水なんだぜ
わざわざありがとう
なぁ
どうして礼を言えるんだよ？
あんたを売るつもりで飢えさせねぇんだぜ
怖かねぇのかよ？

どうして
す
すう・・
傷が——
どうしてそんなに
優しく笑えるんだ——?
あのシスターは掘り出しもんだったなぁ
どこぞの貴族の姫さまっぽいがな

あんな粗末ななりのシスターがかよ——
あそこの町でよ竜石持ってる奴がいるってんだよ
竜人族の力の源って石かァ・
本当にんなもんあるのかあ？あったとして持ってどーなんだよ
グルーラは堅固だ騎士団がバカみてえに強くてよー…!
…聞いたか？
アリティアの王子がとうとうドルーアに歯向かったってよ

ガルダの海賊どもをやっちまってよ
タリスを発ったってハナシだぜ
そのハナシはガセじゃねぇぞ
頭目！
一行はガルダの町に入ってる
ってこたぁ山越えか
オレルアンにいるニーナ王女をお助けするんだろーよ

そんな世間知らずにやすやすと山越えさせていいと思うかぁ？

やるのか頭目！

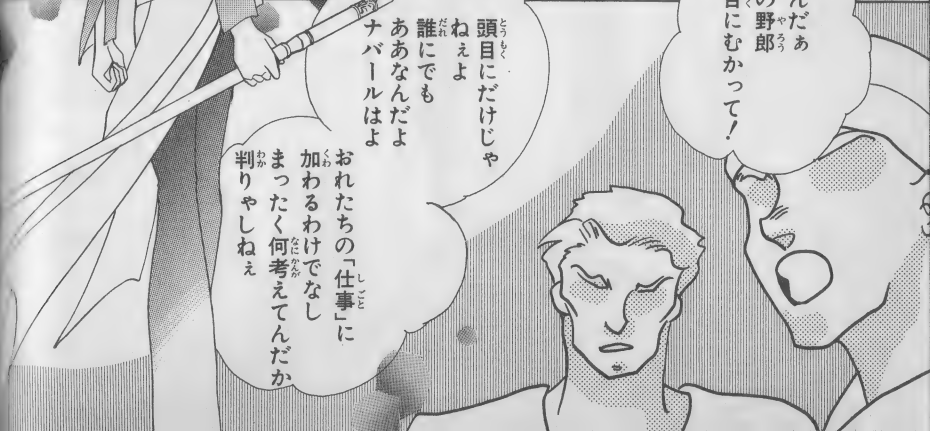
たりめえだ こんな獲物を逃がしちゃあ サムシアンの名が泣くだろうが

2年も寝てた騎士どもにやられるような海賊とは違うんだよ

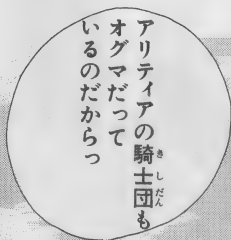
手向かう奴は王子だろうがなんだろうが殺しちまえ

ナバール

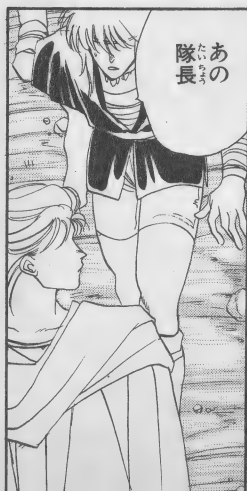
今度もまたよろしく頼むぜ

ぱっ
アリティアの騎士なんかじゃおまえのその剣にとっても物足りねぇだろうがな
なんだぁあの野郎頭目にむかって！
頭目にだけじゃねぇよ誰にでもああなんだよナバールはよ
おれたちの「仕事」に加わるわけでなしまったく何考えてんだか判りゃしねぇ

あんなけっこう年代ものの剣を片時も離さねぇでさ
信じらんねぇくらい斬れるんだからしょうがねぇだろう
あの剣を抱いて寝てるのさ
奴は死神だからな
いいかげんそのむっつりした顔をやめてくれないかアベル

生まれつきですっ
むすっ
アベルの気持ちも判らないではありませんよ王子
どうして山越えにこの道を選ばれましたか
確かに最短距離ではありますが
ばさ.
どんどん森が深くなってきたわ
道が木で見えたり途切れたり…

これ以上マルスさまたちにあわせて飛ぶのは無理ね
先に合流地点に向かいましょうエルカイト

……
ばさばさばさばさ

大丈夫よ

アリティアの騎士団もオグマだっているのだからっ

やっとシーダは先に行ったみたいだね
姫のお気持ちも察してさしあげてくださいっ

あの隊長

商人らしき男のその 死体…を見つけたんですが
身元を証明できるものは
身ぐるみはがされてます・・・また
…似顔絵をとって埋めてきますので先におすすみください
すいませんアベル 絵心のあるヤツいなくてー
多いね
そう 多いんです！
それだけこの道はサムシアンに狙われやすいということです
なのにあなたはこの道を選ばれた 他にも道はあるというのに！
シスター・レナをサムシアンから助ける約束をしただろう
サムシアンに会わなければどうしようもないじゃないか

会わずに
すむなら
それにこしたことは
ございませんぞっ
ジェイガン卿の
言われる通り
です
私にシスター
救出の命を
くださればば…
は？
会いたいんだよ
会いたいんだ
サムシアンに
国々が安定し
人々が平穏に
暮らせるならば
盗賊など
しなくてもいい
連中かもしれない
だろう？
それなら
原因の一端は
ぼくにも
あることになるよ
ほうって
おけない
助けなければ

サムシアンに苦しめられている人々を
――サムシアンを
王子…
――なんと
お優しいことだ
同盟であるグラ王国に裏切られ父王を失い母君と姉君とひき離されたというのに
未だ人を信じることをやめようとはなさらない

国がどれだけ
豊かでも
豊かであれば
あるほど
人の欲は
増すだろう
盗賊も戦争も
なくなりはしない
「王子」らしい
お考えだが
現実を知る時はそう遠くはない
マルス王子
あなたは
その現実の
まっただ中に
いるのだから
・・その時が来たら
あなたはどう
変わられるのか
あなたの
その優しい瞳が

その輝きを
失うことの
ないように
そのために
おれたちは
剣を取ろう
アリティアの
御名の下で
アリティア軍が
山に入ったぞ

北よりの道を進んでるぜ頭目
馬が進めるような道はあそこくらいだからな
森の深くなる手前片方が崖になってるところで仕掛けるぞ
騎士に真正面から斬りつけるような馬鹿な真似さらすんじゃねえぞ
名乗りはあげていいかい？
ぎゃはは
楽しくなってきたなあおい！
…いけません
わいわい…
シッ
こんな

こんなことをしては

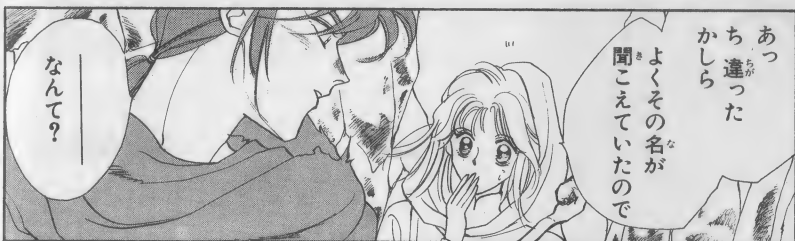
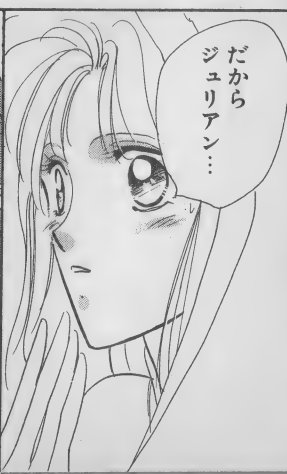
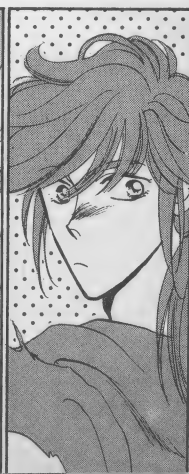
今しかねぇんだよ

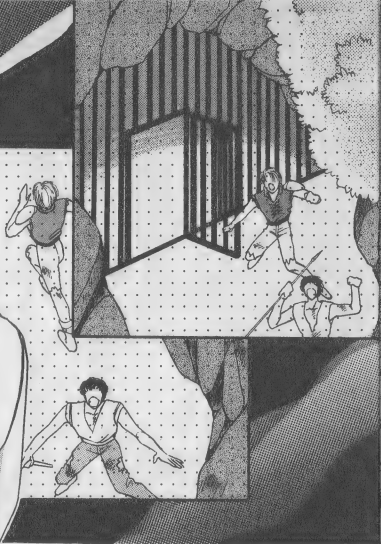
アリティア軍を襲う準備でみんな浮き足だってるからな

アリティア?

渡りに船だ先回りしてあんたを助けてもらうんだ

いえ こんなことをしては

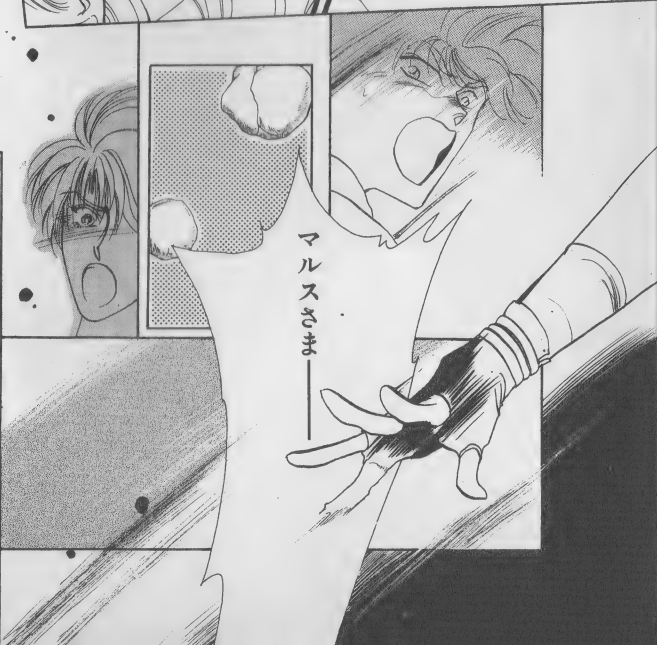
あなたが大変な目に遭うのではないのですか

ジュリアン・・・!

おれのことは
いいんだよ
どこでも
どんな時でも
なんとか
やってけるから
でも あんたは
こんなとこに
いちゃ
いけねぇよ
だけど
おしゃべり
したいなら
おれたちふたりの
無事を
祈ってくれよ
シスター
ふ
あッ

――
シスターが逃げた!?
…間抜けが
ジュリアンがいねえ頭目
奴だ!
あの野郎女に惚れやがったか
盗賊ふぜいが僧侶に惚れてどうするってんだ
おい誰か…
アリティアの連中に助けを求めるつもりだろう

ならば
行き先は同じだな
ナバール
だが
シスター・レナが
いる限り
険しい山道を
つっきるわけにも
いくまい
始末を
つけてから
おまえたちと
合流する
さっさと行け
あ
ああ
じゃあ
ジュリアンと
シスター・レナのこたぁ
頼んだぜ
ナバール
行くぞ
てめぇら!!
おうッ

アリティアの王子
――か
松明!?
サムシアンか
王子 隊列の中ほどへ!!
地の利に明るいサムシアンが明りを使うか?
!

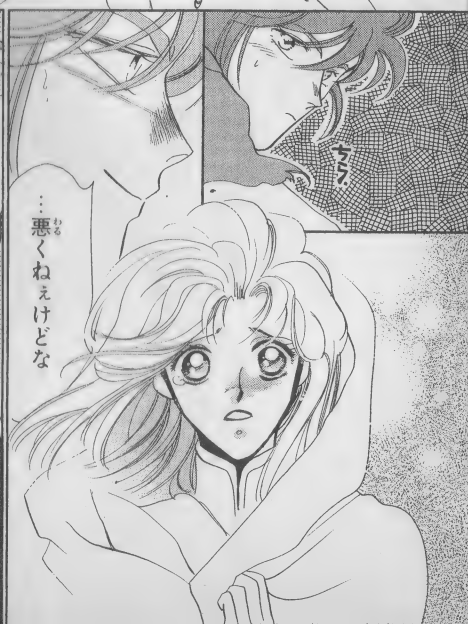
名乗りも
あげずに
頭の上から
失礼するぜ
騎士の皆さま
ひゃははは
くそっ
駄目だ
馬が
興奮して
うわあああッ
…！

マルスさま――
落ちるぞ
王子が！
ひゃははは！

オグマ なんてことを!
顔を伏せて 目を閉じて いてください しっかり つかまって
はははは
落ちたぞ 王子が!!
はは
マルスさま
オグマ
マルスさま——ッ!!
!

今なにか地響きが——
あ？
アリティアの騎士団がつかまった…のさ
ナバール——
シスターの足を計算に入れなくとも逃げきれはしない
ふわ

やってみなきゃ
判りゃしねえよ
死神さんッ
ここまでだ
・・・レナ
ごめんよ
最後まで
面倒みきれ
なくてさっ
ジュリアン!!
ご自慢の
二刀流で
お相手して
いただけるとは
光栄だねッ

ばっ
ジュリアン
渾身の一撃
左手で軽く
受けられちゃあ
なあ
じんじん
ちっ
…悪くねぇけどな

レナッ!!
ぴたっ
……!
女を斬るのは好かない

もしやあのガキ
どてん!
な…んとか
助かりました…が
――深いとび色の瞳
明るい金茶の髪
左の頬の斜めの十字の傷
おまえタリスのオグマか――!

もしやあのガキ
いやお方が
アリティアの
マルス王子!?
お気をつけてください
そ・い・つ・が
ナバールですっ
王子さま!
!
サムシアンの
用心棒の?
じゃあ そこの
シスターは…
いるんじゃ
ないかと
思っていた
オグマ
噂に聞く
大陸一の
剣闘士
何故か
タリスなどに
住みついていたが

穏便に事を
すませたい
ところだが
そうもいかない
みたいだな
ナバールとやら
どこの流派か
知らんが
見せてもらおうか
おまえの二刀流
あ…の
王子さま

あっ
ああ 無事で
よかった
シスター・レナだね
ふもとの町の
町長から
助けてくれるよう
頼まれてぃたんだ
こちらは？
まあ
そんな…
・・・
こちらだなんて
もったいねえ
おれは
ジュリアンっつって
サムシアンの…
ひとり
だったんスけど
裏切っちまった
から
ただの盗賊に
格下げだなぁ
ははは
それより
王子さま
止めた方が
よかぁ
ないですか？
あのふたり

タリスのオグマのこたぁ おれでも知ってますけど
それ以上にあのナバールのことも知ってます
剣を抜いて向かってくる奴には容赦ナシなんだ
相討ちにでもなったら…
うん それをぼくも心配しているんだ
ザッ
失いたくないからね
どちらも
へ？・・・どちらも？
だけどあのふたり
楽しそうに見えるから——
なるほど死神だな

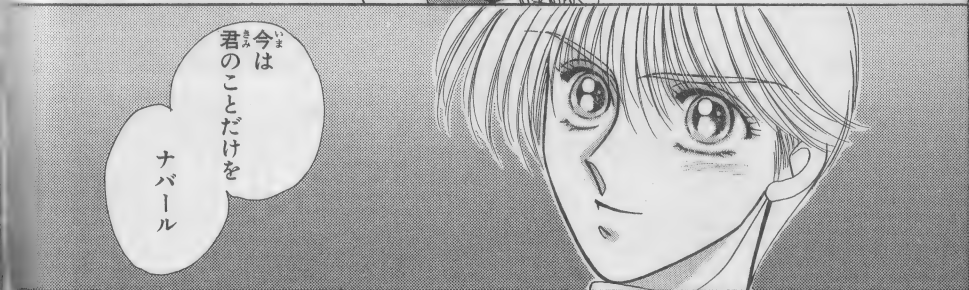
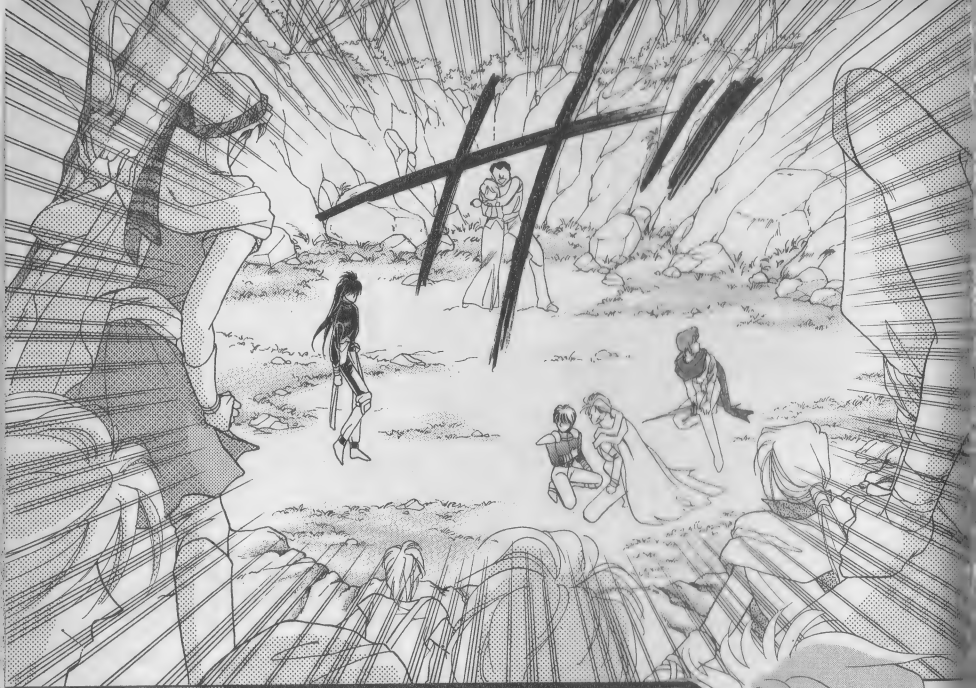
ざざざざ
伝わってくる
それだけで斬れそうなオグマの
ナバールの殺気が——
キッ
見つけた見つけた王子さま！
きゃ
へへえシスターもいっしょだぜ
頭目にほめてもらえるなあッ
！

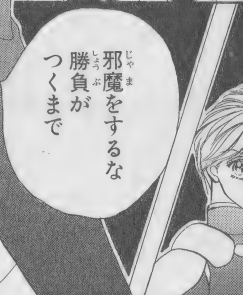
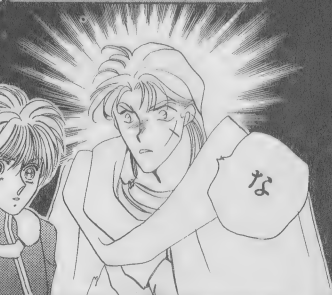
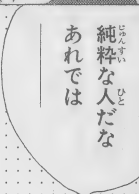
そういう手段か
卑怯なッ
貴様
びくっ
この男との勝負がつくまでアリティアの王子にもシスターにも手出しをするな
手出しをしたやつはおれが許さん!!

ほら　また伝わってくる
ふ.
あのふたりの
剣士としての
殺気が
なんだ
あの野郎
…けっ
にゃ
ガサ…
ナメてんじゃ
ねえ
若僧があッ
あ
は!!

おおっと
動くなよ
王子さまに
ジュリアンよ
シスターの
この白い喉が
ぱっくり
裂けるぜ
レナ
私になど
かまわないでっ
…!
もらったぁ
邪魔すんなら
おとなしく
寝てな
ナバール!

なにい!?
ぐえ

マルスさま!!
たいしたことはない
大丈夫だ
何を
考えている
一国の王子が!
今は
君のことだけを
ナバール
頭目
こっちだ!!

おまえがサムシアンの首領か！
いかにもお会いでき光栄のいたりアリティアのマルス王子さまとその従者どの おつきがたったひとりとは寂しい限りでございましょうが・・・何やらおまけがいるご様子で

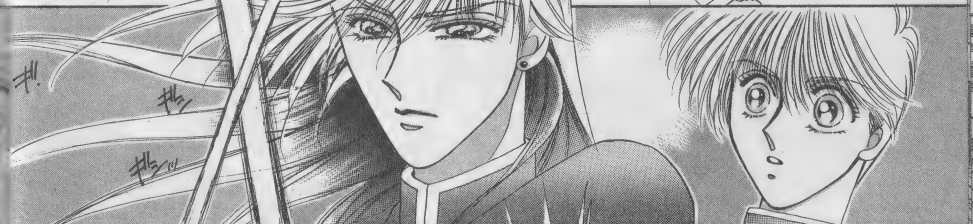
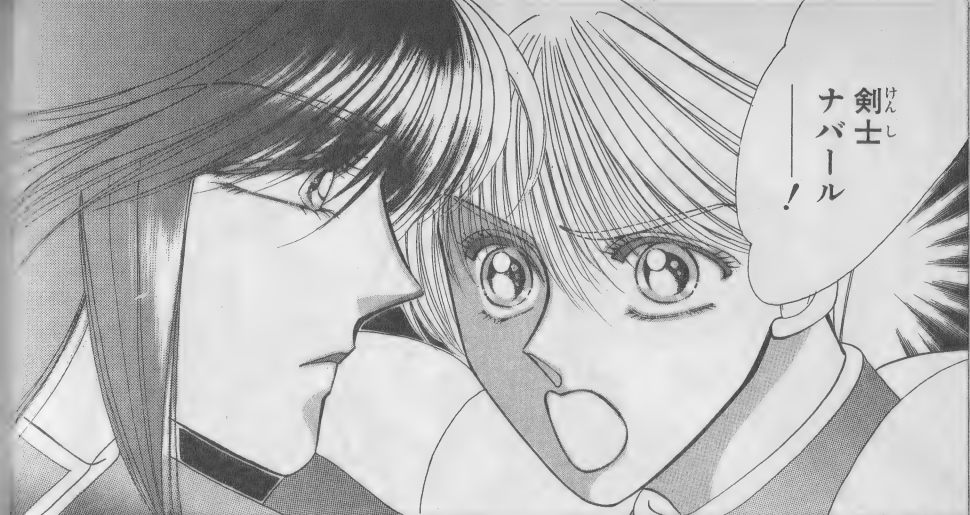
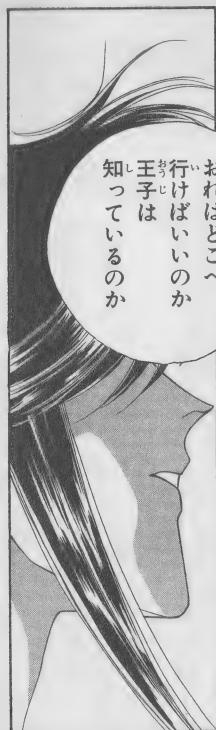
…ただですむたぁ
思うなよ
ジュリアン
ベー…っ
なんだぁ？
ナバール
やけに遅いと
思ったら
そこの御仁と
チャンバラ
してたのかぁ？
──
そうだ
な
邪魔をするな
勝負が
つくまで
…んと
自分勝手な
この状況で
純粋な人だな
あれでは
──
くす
ははは
手を出すなぁ？
どこにも
行けないだろう

ざけんじゃねぇ
ナバール
んなこたぁ
後でやるんだな
おれたちの邪魔を
する気なら
とっとと消えな
王子を
捕えろ
シスターには
傷をつけんじゃ
ねえぞっ
値打ちが下がる
王子さまは
しょうがねえかも
しれねえなあ
傷がつくのは!
どうする
数でも
地の利でも

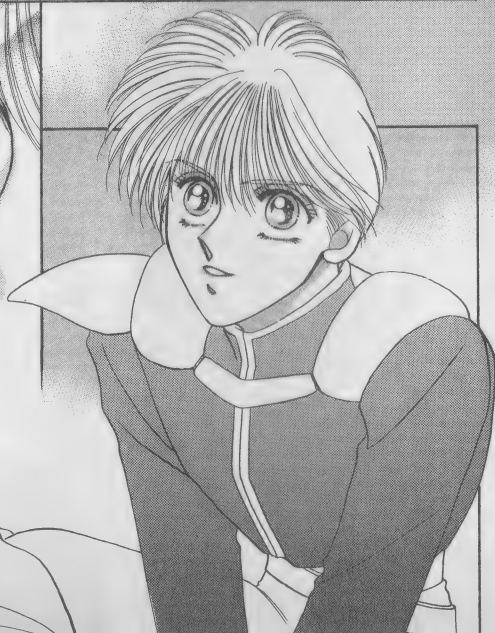
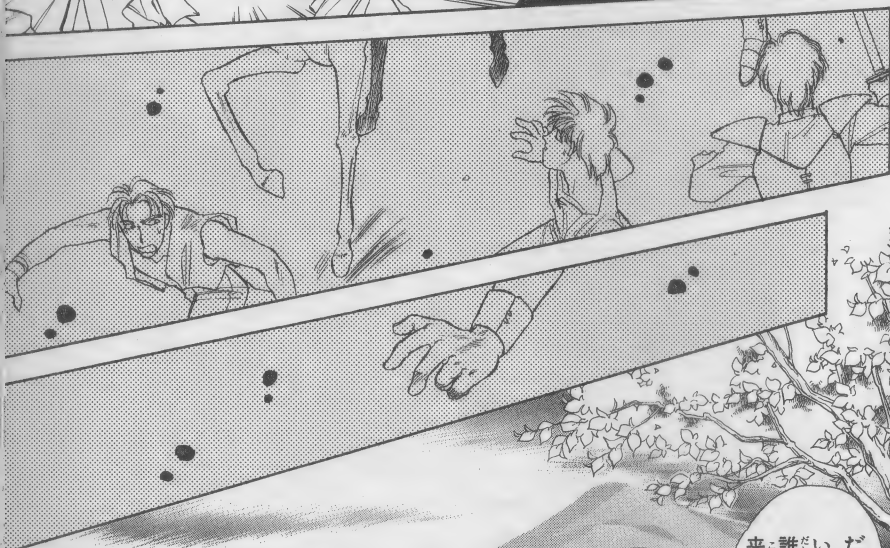
その他の状況でも
圧倒的に
分が悪い！
ちくしょう
王子はともかく
あの男
めちゃくちゃ
強えぞッ
う
他の騎士団の
連中は？
足止め
くらわせたから
そう簡単に
追いつけは
しねえはずだぜ

に…
違う
何やってんだ
ナバールの奴
あの王子は敵を
殺してない
…！
うわ
なんだ
投槍
ドカッ

天駆ける騎士がいる
この上に
白の天空騎士が!!
げッ
聞こえたわね
エルカイト
なつかしい声!
やっと
見つけたわ
見つけたのは
サムシアンたち
だけれど
マルスさまは
ご無事で
いらっしゃる!

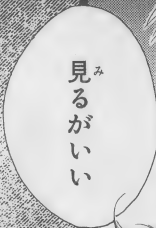
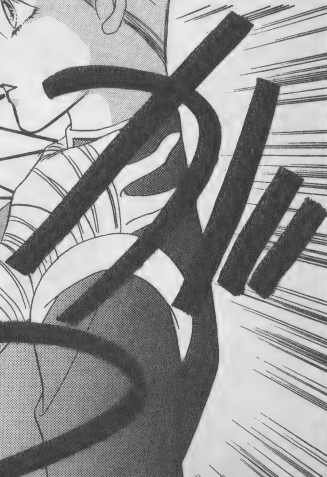
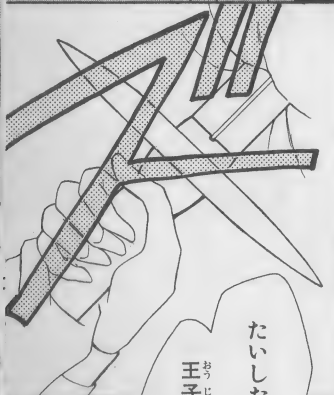
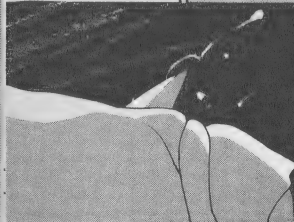
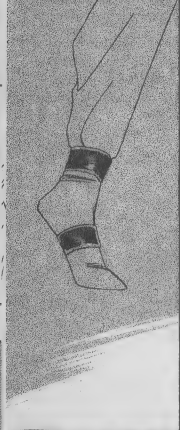
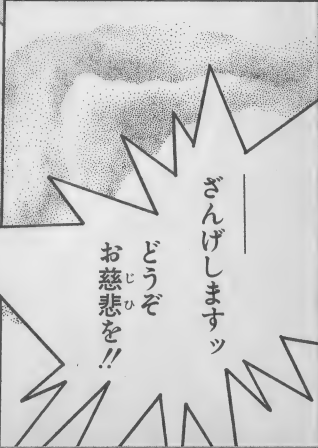
バサ
この木立では降りられない
遠ざかっていく？
しまった場所が知れた！
騎士たちが来る!!
ち
少々のキズはかまわねぇ
王子だけでも捕まえろッ!!
王子さま!!

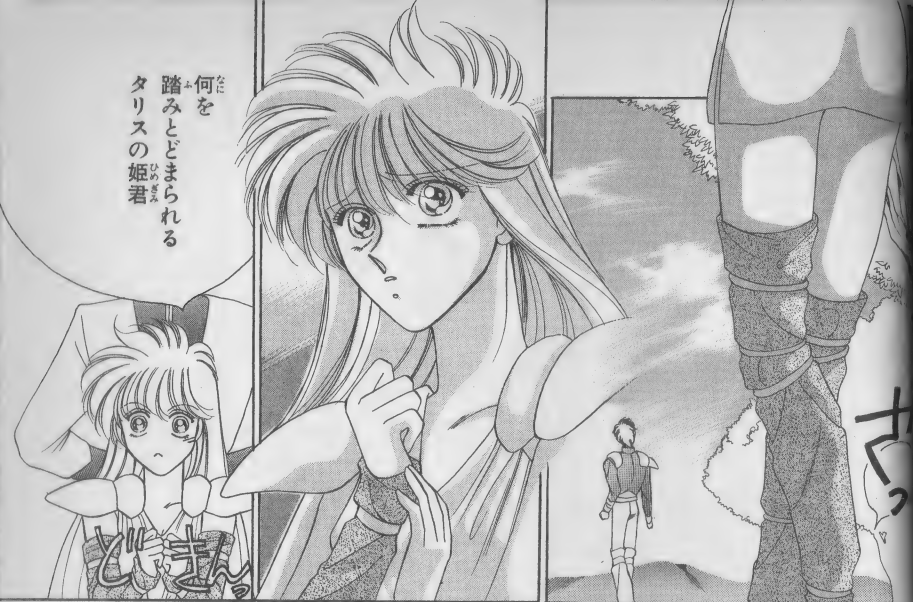
ふ
あ
ナバーーールッ!!
てめぇぇっ
はっ

ナバール
いけない
殺しては！
おれはおれに剣をむけたものを許しはしない
一度見逃せば二度目に三本の剣で向かってくるだろう
ならば何故
この時代に情けは己を滅ぼすだけのものだ
シスターといたあの男を殺さなかった？
君は
ここでそんなことをするべき人じゃないからだろう？

剣士ナバール――！
マルスさま
ばっ
ザッ
では王子

おれはどこへ行けばいいのか王子は知っているのか
ぼくのところ以外にどこへ行くつもりだい？ナバール

死神を地獄へ誘惑するか
抗えんな——
はあっ
！

騎士団
だって いつまで待っても 誰も 来ないから
お手柄ですよ 姫 私はまた 救われましたね
だったら ・・カンで槍を 投げたことは 内緒にして おいてね
はいはい
殺せ
こそこそ

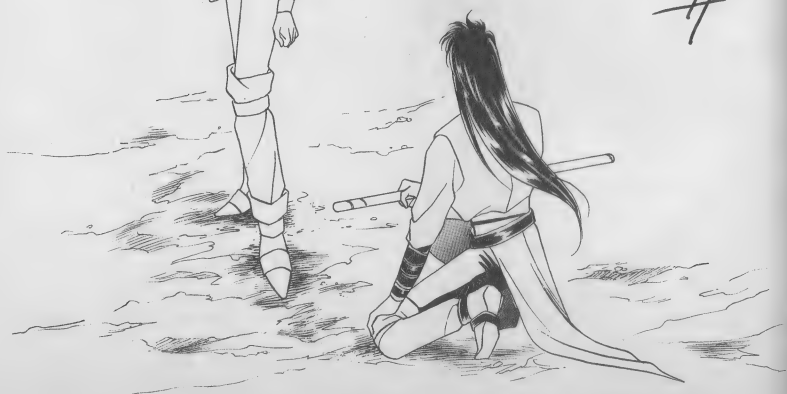
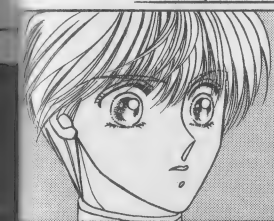
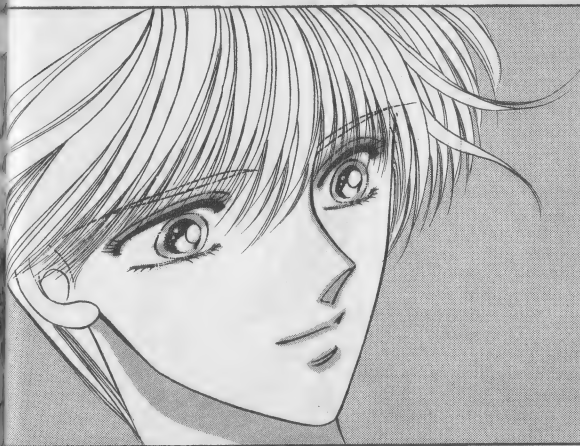
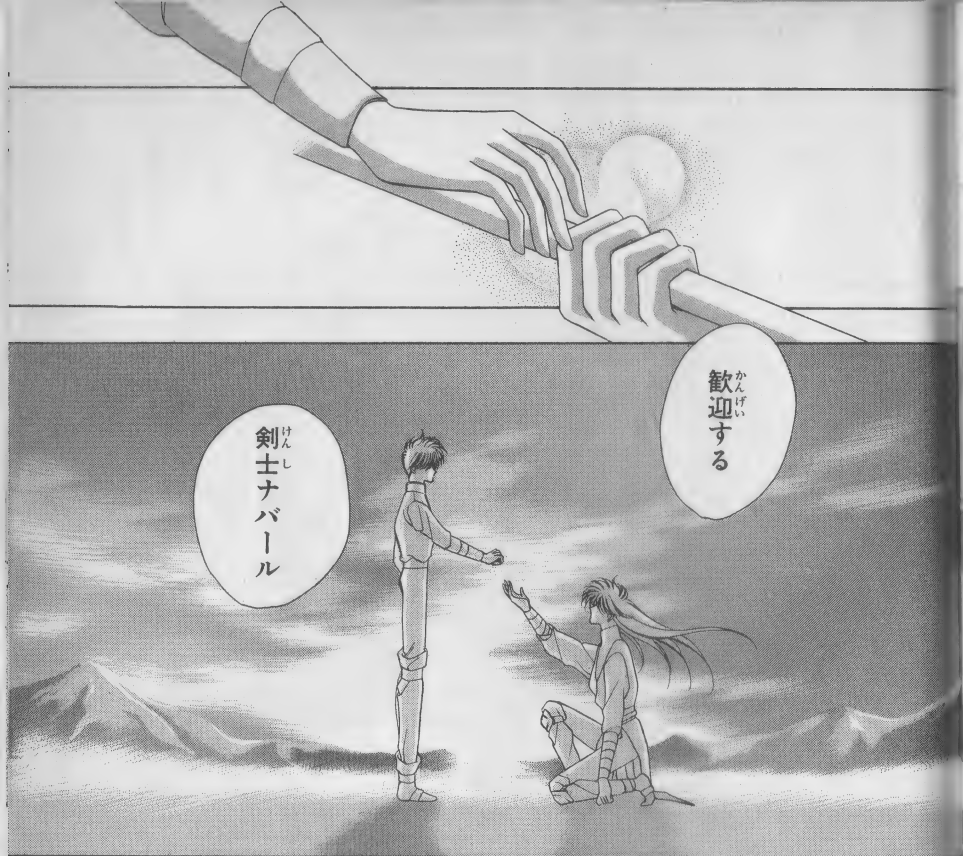
さっさと
殺しやがれ
ちくしょうッ
本人が ああ
望んでいるの
だから
そうしてやったら
どうだ
ナバール
てめえ
裏切り者が
……
そういう
わけにも
いかないだろう
ナバール殿
「殿」など
つけるな
うっとおしい
行くあてのねぇ
ガキだったてめえを
拾ってやった恩も
忘れやがって
拾ってもらった
覚えはないいな

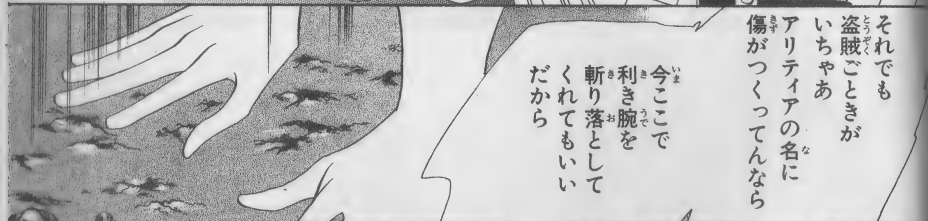
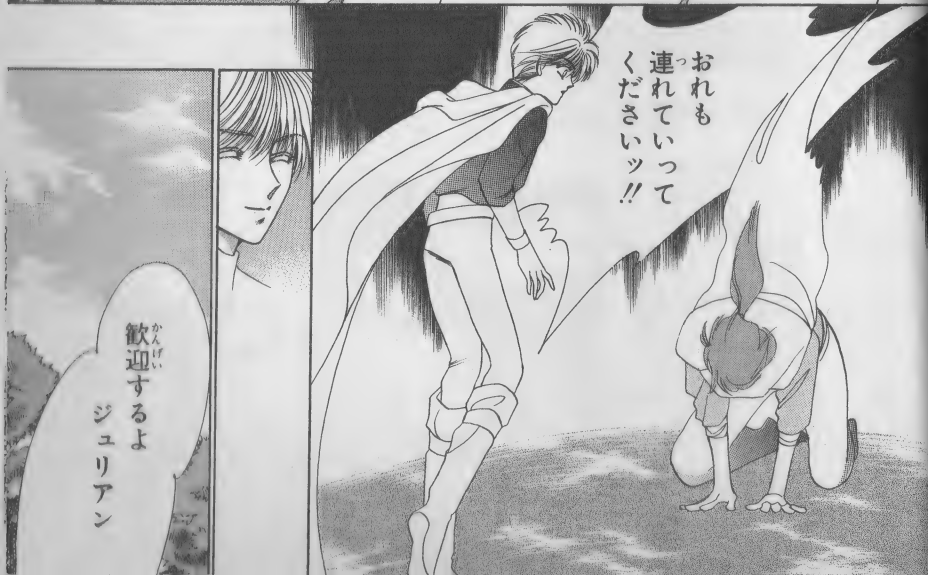
堂々と剣で渡りあっておまえに勝ったから用心棒として雇われたんだ
かつての仲間をこうもあっさりと裏切るとは…
王子を護っての戦いぶりは見事でした
シスターにも傷ひとつつけてはいない
うーむ
ああは言っても
私は奴と剣を交えました
あの剣の冴えの潔白清廉さをご存じないから…
す.
王子!?
無益な殺生はしない
ブ…
…ッ

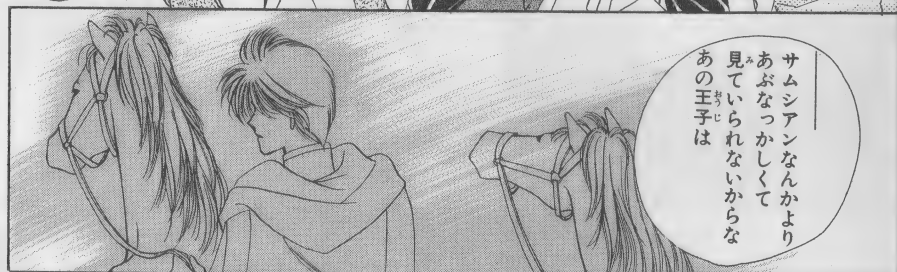
シスターに
ざんげを
自分の過去を
告白するものは
アカネイアの光を
受けることを
許されるだろう
なんと
お心の広い
――!
殺されても
文句を
言わないような
お優しい
王子さまだ!!

王子!!
このガキ
まだ指に
力も
入れてねぇってのに
…よぉ!
たいした
王子さ…ま

見るがいい
これがアリティアの王子を裏切るということだ
——ざんげしますッ
どうぞお慈悲を!!

ざっ
何を踏みとどまられるタリスの姫君
どきん
こうしていると皆の視線が痛い
――ナバール
好かれておいでだな白の天空騎士
その貴女が王子のお側におられることに異議を唱える者もあるまいに
姫さま
姫さまのそばにあの新参者がっ
わたし

まだこども
だから
マルスさまに
言う言葉が
見つからなくて
少女は少年よりも
先に大人になる
あなたには
あのひとに
けれど誰にも
追いつけない
はやさで
王子は大人に
なってゆく
言う言葉が
ある?
剣士ナバール
背負いこむものに
見合う力を
手に入れるために
…ある

王子だけに言うべき言葉が
剣士として
ザ

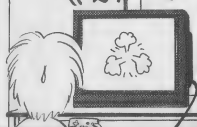
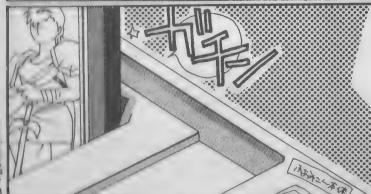
我(わ)が剣(けん)の下(もと)に
我(わ)が生命(いのち)と
我(わ)が忠誠(ちゅうせい)を
我(わ)が君(きみ)に
――

歓迎する
剣士ナバール
私がどこの村
どこの国にも
居つけなかったのは

そのどれもが本当に私のいる場所ではなかったからなのでしょう
どうか私もこの旅にお加えくださいお役に立ちます
しかしシスター我々はドルーアに戦いを…
いいではありませんかっ
私が護ってさしあげるわ
姫さま
あの町長には早馬でも出してシスターが無事であることを知らせておけば安心すると思います！
だそうだカイン
…はい
行ってきまーす
ありがとうございます!!
ざッ
うわ!?

ジュリアン！
さがしていたんだよー！
…おれ
ざん・げ・もしました
それでも盗賊ごときがいちゃあアリティアの名に傷がつくってんなら
今ここで利き腕を斬り落としてくれてもいいだから
おれも連れていってくださいッ!!
歓迎するよジュリアン

きっちり
勝負をしたかったな
オグマ
いつか
そういう機会を
持ちたいものだ
やめてくれ
同志なのに
サムシアンなんかより
あぶなっかしくて
見ていられないからな
あの王子は
おまえのことを
純粋だと
言って
おられたよ
誰も彼も
許す強さと
裏切りを
許さない強さ
…ふん

揺れることなく
与えてくれる答えが
見えているなら
何も迷うことなど
ありはしない
つきあうのも
悪くはない
この剣を
捧げたの
だからな
草原が
見えてきたな
広大な領土の
オレルアン
ドルーアに
押されぎみだと
聞く
どうかご無事で
ニーナ王女

総帥
――「黒騎士」殿
アリティアの騎士団がオレルアンに到達しつつあるとのことです
――そうか
後の世に
黒竜戦争と呼ばれアカネイア大陸を戦乱の渦に巻きこんだこの戦いは
まだその幕すらも完全に上げきってはいない
✵第2話/紫嵐✵おわり

AMUSE PRESS②

こんにちは
AMUSE PRESS
第二回です。
(第一回は「トーキョー・ガーディアン」①だよ)

エリス 9さい
マルス 7さい
シーダ 5さい。

いやー
ハマった!!
の
ここまでハマったゲームは後にも先にもコレだけです
なんたってまんがにしてしまうくらいだから病は深い
うれしそうなのがまた何とも…
ゲームをまんがにするのも初めてのファンタジーも初めてづくしで不安だらけのスタートでしたが
資料 資料〜
何事や?!
どびっくり。
各方面からの温かく強力なご協力のもとなんとかこうして第一巻をお届けすることができました。
先は長いぜ
ちっちっ
一体いつ会えるのやら〜
本当にありがとうございます!
ちなみに「F・E」はロールプレイングシュミレーションゲームで全25章(MAP25)から成り立っているファミコンソフトです第一巻収録分でMAP3まで進んだことになります。
MAP3「デビルマウンテン」の主役。(人気も一番) アンケートの結果
ぬっ
叫んだか?
そーだったのか…
激おもしろいのでやってない人は是非TRYしてねっ!!
二番人気
備考
今迄に登場しなかった人々。ゲームには出ていた人、ともいう。
リフ(僧侶) MAP1
カシム(ハンター) MAP2
ダロス(海賊) MAP2
いや別に忘れたワケでは…。ファンの人ごめんなさい。
ごほごほ
この老体ほ戦いはやはり辛りかと…
隠居しとりますじゃ
リフ

なるべくゲームに
忠実に展開して
いきたいとは
思っているのですが
構成上
不都合なトコロも
出てきてしまうので
オリジナルな要素も
入っていたり
(故意に入れたり)
しています

私たちなりの
F・Eの世界を
楽しんでいただけ
たら、と
思っております。

それではここで
設定ラフ
(要するにただの
いたずら描き)に
少々解説(?)など
つけてみましたので
おつきあい
下さいませ♥

云わずと知れた アリティア国王太子。童顔。
16歳にしては 少々細めで 儚げだが…
剣の腕は なかなか。(但し 発展途上ね)
足も速いし 身も軽い。王子らしからぬ 明るい元気な 男の子。老若男女 向わず
モテているが、本人 照れているのか
無視してるのか、もしくは本気で 気付いていないのか…。今の彼の 目標は 3つ。
ハンデなしの 状態で、オグマから 一本
取ることと、寝起きを 良くすること。(寝起きに 気嫌が 悪いのではなく、ただ 起きて
しばらく ボーーッとしているのである…)
それと 大きくなること。…コレがいちばん!

マルスの 食生活は…と云うと、グルメではないけれど
本当に おいしいものを 知っているコトでしょう。王子だもん。
長旅においての 粗食も 平気。… 皆と同じものを 食べたりして。タリスにいる間にお魚が好きになった様子。

シーダ

タリス王国王女。お姫さまです。
国は争いを好まない平和主義国。
（本文中に出てくる兵は皆義勇軍であって本物の兵隊ではない。）
常在しているのは オグマを隊長とする親衛隊のみ。 それ故か 男子のみが王となるという習慣も無く、将来シーダは女王となるかもしれない
彼女自身は おてんばさん！
口だけではなく 本当に あらゆるイミで強い女の子です。
幼い頃、国交のあった アリティアの マルスやエリスを親族同様に想っている。
マルスとシーダ。 この2人は、ある点で 反比例しつつ、お互い成長していきます。
ペガサスナイト。愛馬の名前は エルカイト。

ナバール

黒髪・緑眼の異国の容姿の剣士。
それだけではない何か近寄りがたい雰囲気のある人物。無言実行の典型で ともすれば一人で切りこみ、戦場のド真ン中で死にかけてるコトもあるという 全く自分を顧みない性格の持ち主！
25〜27歳ぐらい。二刀流の長剣の方には銘が入っているらしい。お酒に対して異常に強いのもこの人！

オグマ

もとは 地方領主所有の剣闘士。
ほほをはじめ身体中に傷あとがあるが それらは何らかの拷問のあとらしい。
その内のひとつのせいで一時は引退していたこともある。彼を拾ったのは タリスの シーダ姫で、以降 彼女（と王家）に忠誠を誓う。剣は両利き。
戦いにおいては 大陸に名をはせた程の腕前だが 普段は 面倒見の大変よい おぢさん。
マルスとシーダと、なぜか ナバールには 頭が上がらない…！

飲みすぎだ おまえェッ
え？
→ぜーんぜん平気。

カイン(左)

彼の方が 2ヶ月程年上。荒馬を乗りこなすのが得意。
切り込み隊長で、後に「猛牛」と云う仇名をつけられてしまう。
要するに 猪突猛進タイプで 陽気な正直者。"好青年"ですね。いわゆる。

アベル(右)

先祖は他国(グルニアあたり)からの 移民者で もともとの貴族の出。冷静沈着で 戦う軍師といった趣き。カインの操い方はピカ1。剣技を得意とし、その珍しい髪の色から「黒豹」と称される。(アカネイアに黒髪は少なく ほとんどの場合、他国の者たちである。)

2人供 マルスより 5つ年上。(現在21才) アリティア宮廷騎士団の ソシアルナイト。歴史の浅いアリティアの貴族の中でも 有名な家の出身。が、アリティア陥落時の 戦いで 親族全てを 失っている。
2人は 親友であり 良きライバル。幼なじみでもあーる。 くされ縁かな?!

マルス・7歳
カイン・12歳
アベル・12歳

小さな頃から いろいろと世話をして貰っていた マルスにとって 2人は「大好きなお兄さん」と云った存在。彼らが 本格的に 騎士としての訓練を はじめて マルスの相手が あまり 出来なくなった時、マルスにしては 珍しく 毎日不機嫌だったらしい。
甘えんぼだったんだよねーマルスは きっと。

その他の方々……

いいえ別に 忘れてた訳じゃなくって―― 頁数の都合上、という奴ですよ
くるしい。 今迄出てきた人もこれからの人も、おいおい機会をみて 紹介等、していけたらな、って思っています。
待っててね。

「ファイアーエムブレム」という作品はまだまだ先の見えないお話ですがせいいっぱいがんばってゆきます。

ので第二巻以降もどうぞよろしくおねがいします

SPECIAL THANKS FOR…
任天堂のスタッフの皆様
TSUBASA・IWASAKI
SEY・GOTO
MIEKO・TAMURA
MIWA・SAWAMURA
ASSISTANTS

SHOZO・KAGA

AND YOU

初出

ファイアーエムブレム 第1話/黎明

1992年増刊「ASUKA」ファンタジーDX新春号掲載

ファイアーエムブレム 第2話/紫嵐

1992年増刊「ASUKA」ファンタジーDX春の号掲載

AMUSE PRESS②

描きおろし

ファイアーエムブレム 1　あすかコミックスDX

著者——佐野真砂輝 & わたなべ京

発行者——角川春樹

発行所——株式会社角川書店

〒102 東京都千代田区富士見2-13-3

振替／東京3-195208 電話／編集部03-3239-8651 営業部03-3817-8521

装丁——末沢瑛一

印刷——株式会社廣済堂

製本——株式会社廣済堂

初版発行——1992年7月30日

再版発行——1992年9月10日

〒102 東京都千代田区九段北2-3-2 アスカビル4F あすか編集部

ISBN4-04-852353-8 C0079

Printed in Japan

佐野真砂輝＆わたなべ京の本

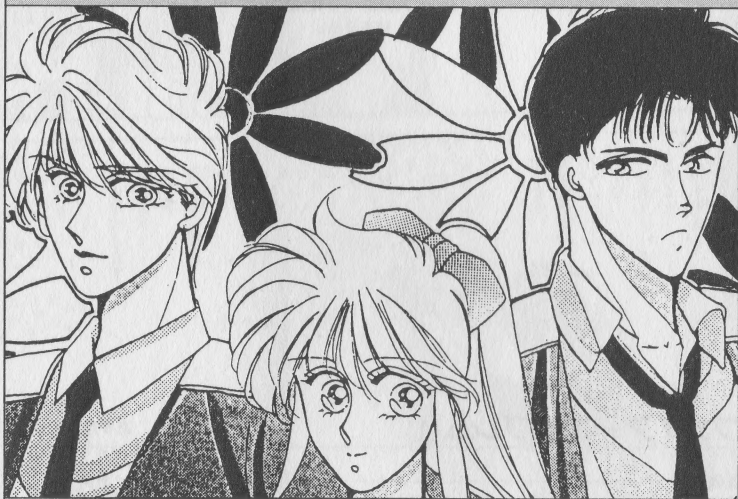
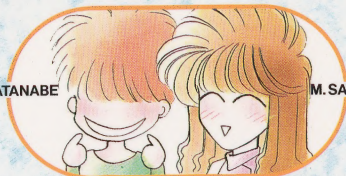
あすかコミックス

トーキョー・ガーディアン ①

あすかコミックス・DX

ファイアーエムブレム ①

角川書店

P R O F I L E

佐　野　真　砂　輝

☆さのまさき
196X年12月19日生まれのB型
東京都出身

わ　た　な　べ　京

☆わたなべきょう
196X年8月16日生まれのO型
大阪府出身

デビュー作は「スプラッシャー」。

佐野真砂輝&わたなべ京の本

あすかコミックス
トーキョー・ガーディアン[1]

あすかコミックスDX
ファイアーエムブレム[1]
ファイアーエムブレム外伝

ISBN4-04-852353-8 C0079 P520E 定価520円[本体505円]
角川書店

伝説の勇者(ゆうしゃ)・アンリが封じた暗黒竜(あんこくりゅう)メディウスが甦(よみがえ)った!!
そして今、アンリの血をひく王子・マルスは戦いに臨む――!!